2011 年度の山口大学の国際交流活動

2012 年 3 月

山口大学国際戦略室

目次

はじめに ---------- 1

第 1 章　2011 年度の国際戦略室の活動 ---------- 3
1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」で見る 2011 年度の国際戦略室の活動 ---------- 3
2. 国際戦略本部及び国際戦略室の組織と役割 ---------- 18
3. 学術交流協定 ---------- 19
(1) 2011 年度の学術交流協定の締結等 ---------- 19
(2) 大学等間学術交流協定一覧 ---------- 20
(3) 部局等間学術交流協定一覧 ---------- 23
4. 海外拠点 ---------- 26
5. 本部への海外からの来訪者一覧 ---------- 27
6. 本学学長等の海外訪問一覧 ---------- 28
7. その他 ---------- 29
(1) 山口大学「国際月間」 ---------- 29
(2) 国際協力活動推進プラットフォーム ---------- 29
(3) 国際会議、国際シンポジウムの開催 ---------- 30
(4) 政府開発援助（ODA）との連携 ---------- 30
(5) ODA 事業との連携実績 ---------- 31
(6) 研究者の交流 ---------- 34
(7) 職員の研修 ---------- 35
(8) 学内の国際化推進体制の整備 ---------- 35
(9) 留学生の促進策 ---------- 35
（参考）出身国・地域別留学生数の推移 ---------- 36
（参考）学術交流協定に基づく交換留学生数 ---------- 37

第 2 章　2011 年度の留学生部門の活動 ---------- 38
1. 留学生アドバイザー、アドバイザーアシスタントの配置 ---------- 38
2. 「外国人留学生懇談会」の開催 ---------- 38
3. 「外国人留学生見学旅行」の開催 ---------- 38
4. 各学部からのニュース ---------- 39
宇部高校 SC（スーパーキャリア）講座に工学部留学生が講師として参加協力
（工学部） ---------- 39

第 3 章　2011 年度の学術研究部門の国際交流活動 ---------- 40
1. 独立行政法人日本学術振興会助成 ---------- 40
(1) アジア研究教育拠点事業　【大学院医学系研究科（農学）山田守教授他】--- 40
(2) 若手研究者交流支援事業　【大学院医学系研究科（農学）山田守教授他】--- 41
(3) 二国間交流事業　【農学部　音井威重教授】 ---------- 42
(4) 外国人特別研究員　【大学院理工学研究科（工学）中山則昭教授】 ------- 43
(5) 外国人招へい研究者（長期）　【大学院医学系研究科　平林晃教授】 ------- 45
(6) 論文博士号取得希望者に対する支援事業　【農学部　音井威重教授】 ---- 45
2. 文部科学省助成 ---------- 46
科学技術振興調整費「国際共同研究の推進」　【大学院医学系研究科（農学）
山田守教授他】 ---------- 46
3. 山口大学／財団法人山口大学教育研究後援財団助成 ---------- 47
(1) 中国短期派遣研究者プログラム ---------- 47
① 経済学部　石龍潭教授 ---------- 47
② 大学院東アジア研究科　阿部泰記教授 ---------- 47
③ 大学教育機構　留学生センター　赤木彌生准教授 ---------- 48
③ 大学教育機構　アドミッションセンター　大澤公一講師 ---------- 48
(2) 研究者招へい事業 ---------- 48
① 大学院理工学研究科（工学）江鐘偉教授 ---------- 48
② 大学教育機構　大学教育センター　何暁毅教授 ---------- 49
③ 大学教育機構　留学生センター　赤木彌生准教授 ---------- 49

第 4 章　2011 年度の各学部・研究科等の活動 ---------- 50
1. 人文学部　纐纈厚教授　「東アジア地域の共生と歴史和解」【中国】 ------- 50
2. 人文学部　纐纈厚教授　「『偽満州国』残存建築群の調査研究」【中国】--- 51
3. 人文学部　纐纈厚教授　「日中戦争の共同研究」【中国】 ---------- 52
4. 人文学部　纐纈厚教授　「東亜歴史文化学会の開催」【中国、韓国】--------- 53
5. 教育学部　石井由理教授 他　「国際理解教育コース異文化体験実習Ⅱ
タイ・カンボジア研修旅行」【タイ・カンボジア】 ---------- 55
6. 教育学部　上原一明准教授　「建国百年国際木彫芸術活動」【台湾】--------- 57
7. 教育学部　上原一明准教授 他「中日交流水墨画シンポジウム」【台湾】----- 59
8. 教育学部　「アジア地域における国際教育協力事業－カンボジア Siem Reap 州
教員研修支援のモデル構築に関する研究」【カンボジア】 ---------- 60
9. 経済学部　角田由香准教授「第 13 回日韓大学生学術シンポジウムへの参加 」
【韓国】 ---------- 63
10. 経済学部　朝水宗彦准教授 他　「外国人研究員の受入れ」

【オーストラリア】 ---------- 64
11. 農学部　音井威重教授「希少野生トラの精液凍結保存法の開発」
【インドネシア】 ---------- 65
12. 大学院医学系研究科（医学）服部幸夫教授 他「サウジアラビアの KAUST
（王立大学院大学）訪問」【サウジアラビア】 ---------- 68
13. 大学院医学系研究科（医学）中村和行教授「タイ国マヒドン大学医学部・
大学院医学系研究科及び附属シリラート病院訪問」【タイ】---------- 70
14. 大学院医学系研究科（医学）中村和行教授「中国山東大学医学院訪問」
【中国】 ---------- 72
15. 大学院医学系研究科（医学）陳献教授「中国科学技術大学訪問」【中国】------ 75
16. 大学院医学系研究科（医学）陳献教授「上海交通大学訪問」【中国】---------- 76
17. 大学院理工学研究科（理学）安達健太准教授「アメリカ合衆国コロンビア大学の
Nakanishi-Berova 研究室訪問」【アメリカ合衆国】---------- 77
18. 大学院理工学研究科（理学）増本誠教授「ハノイ理工科大学での数学講義」
【ベトナム】---------- 79
19. 大学院理工学研究科（理学）廣澤史彦教授「ベトナムの大学との研究交流
プロジェクト【ベトナム】---------- 81
20. 大学院理工学研究科（工学）上村明男教授「Visiting McGill University」
【カナダ】 ---------- 82
21. 大学院理工学研究科（工学）上村明男教授「Visiting University College
of London」【イギリス】 ---------- 83
22. 大学院理工学研究科（工学）兵動正幸教授「山口大学・全南大学・韓国建設技術
研究院による地盤分野での石炭灰の再利用に関する第 2 回ジョイントワーク
ショップ」【韓国】---------- 84
23. 大学院理工学研究科（工学）吉武勇准教授 他「中国遼寧省銀川寧夏大学訪問」
【中国】 ---------- 87
24. 大学院理工学研究科（工学）田中佐教授（特命）他「『国際バイオ科学・工学
シンポジウム』の開催」【インドネシア】 ---------- 89
25. 大学院理工学研究科（工学）田中佐教授（特命）「ウダヤナ大学への学生留学」
【インドネシア】---------- 90
26. 大学院理工学研究科（工学）田中佐教授（特命）「衛生リモートセンシングに
よる環境・防災研究合同セミナー」【インドネシア】---------- 91
27. 大学院理工学研究科（工学）関根雅彦教授他「東ティモール大学工学部能力向上
プロジェクト」【東ティモール】 ---------- 93
28. 工学部　堀憲次学部長 他「群山大学校との国際交流」【韓国】 ---------- 95
29. 工学部　堀憲次学部長 他「忠北大学校との国際交流」【韓国】 ---------- 96

30. 工学部　堀憲次学部長 他「成功大学との国際交流」【台湾】 ---------- 97
31. 大学院東アジア研究科　福田隆眞教授「亜州美術教育研究会の開催」【韓国】---- 98
32. 大学院東アジア研究科　福田隆眞教授「マレーシア、シンガポールにおける美術教員研修及び調査」【マレーシア・シンガポール】---------- 99
33. 大学院東アジア研究科　福田隆眞教授「台湾における美術教育の調査」【台湾】-- 100
34. 大学院東アジア研究科　福田隆眞教授「韓国外国語大学校との学術交流に関する協議」【韓国】---------- 101
35. 大学院連合獣医学研究科　度会雅久教授「中興大学及びソウル大学との研究教育連携」【台湾・韓国】 ---------- 102
36. 大学教育機構アドミッションセンター　大澤公一講師「Visiting to Cambridge Assessment, University of Cambridge Local Examinations Syndicate」【イギリス】---------- 104
37. 大学教育機構大学教育センター　何暁毅教授「中国山東大学高等教育研究センターにおける講義提供及び交流推進」【中国】---------- 105
38. 大学教育機構大学教育センター　何暁毅教授「語学関係 FD 講演会」【中国】----- 106
39. 大学教育機構大学教育センター 何暁毅教授「『日本江戸時代の易学について』の共同研究」【中国】 ---------- 107
40. 時間学研究科　藤澤健太教授「国際シンポジウム『東アジアの最先端天文学』」【中国・韓国・台湾】---------- 109

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする　知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、グローバル化社会に対応する「チャレンジ精神、行動力、課題探求力があり、自ら人生を切り開くことのできるたくましい人材を育てる大学」を目指したいと思っています。また、地域社会や国際社会の発展に貢献できる人材育成大学としてさらなる発展を目指します。

山口大学は「知」の公共財として、大学を取り巻く地域のリソースと連携して、国際的貢献を担うべきであるとも考えています。2008 年 4 月に学長を本部長とする「国際戦略本部」を設置し、関連する他の部局とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、それに向けた活動を続けています。「国際」というキーワードは、教育と研究に幅広く複雑に関係しているため、国際化に関しても様々な意見や考えがあり、関連する活動も多岐にわたっています。

本報告書では、第 1 章にて本学において行われている国際化に向けた取組を 2011 年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第 2 章、第 3 章に掲載いたしました。また第 4 章では、各部局にて 2011 年度に実施された国際活動の報告を掲載しています。

この報告書が、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の一端を知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様のお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進していきますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

2011 年度の山口大学の国際交流活動

第１章　2011 年度の国際戦略室の活動

1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」で見る 2011 年度の国際戦略室の活動

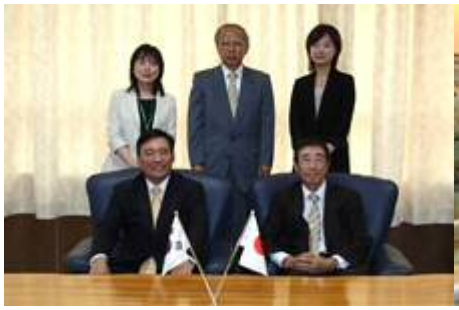
○駐広島大韓民国総領事が山口大学を訪問（掲載日：2011/05/23）

５月１６日（月）、今年３月に着任された、駐広島大韓民国総領事館の辛亨根（シン　ヒョン　グン）総領事が吉田キャンパスを訪問し、丸本学長、松田副学長(国際・社会連携担当)らと懇談を行いました。

懇談では、韓国の大学と本学との学生や研究者交流の現状についての意見交換ならびに今後のさらなる大学間交流の推進について話し合いをし、辛総領事は、できる限り協力したいと述べられました。

懇談終了後には、商品資料館を見学し、展示されている数多くの陶器に興味を示され、質問をされていました。

本学では、今後、山口大学と韓国の交流が発展し、本学への韓国人留学生の増加のみならず、韓国で学ぶ日本人学生が増えることを期待しています。



○JENESYS プログラムのインド訪日団が来学（掲載日：2011/06/14）

6 月 10 日（金）、21 世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS プログラム）の一環として、インドから、社会人や大学生ら 25 人が吉田キャンパスを訪れました。この事業は、大規模な青少年交流を通じてアジアの連帯に堅固な礎を築くために、平成 19 年から日本政府が進めているもので、相互理解と友好関係の促進を目的とした交流プログラムです。

当日は、一行を迎え、松田副学長（国際社会連携担当）の歓迎の挨拶および訪問団代表からの挨拶、山口大学イメージ DVD の上映、大学の概要、入試制度等の説明に続き、質疑応答、記念品の交換を行いました。

続いて、キャンパスツアーを行い、商品資料館、図書館、国際交流会館を 2 グループに分かれて見学しました。

教育学部国際文化コースの学生との交流では、学生および訪問団それぞれの代表が、教育学部国際文化コースの紹介、およびインドについての紹介を行った後、グループに分かれて、自己紹介をしながら、けん玉、あやとり、習字、おりがみなどを通じて訪問団のメンバーに日本文化を紹介しました。また、昼食時には、皆で「お弁当」を囲んで親睦を深めました。

最後に、記念撮影を行い、訪問団から、「一生忘れられない思い出となりました」と感謝の言葉が述べられました。学生同士は、連絡先を交換し、握手を交わすなど、名残惜しそうに別れのときを過ごしていました。

○第５回山口大学国際シンポジウム「知の国際化、知の共有を目指して～地方大学に出来ること」を開催（掲載日：2011/07/25）

７月 19 日（火）大学会館にて、第５回山口大学国際シンポジウム「知の国際化、知の共有を目指して～地方大学に出来ること」を開催し、学内外合わせて約７０人の参加がありました。

シンポジウムでは、丸本学長の挨拶に続き、文部科学省国際課国際協力政策室・梅津径調査官、JICA 中国国際センター市民参加協力課・有田敏行課長、山口大学エクステンションセンター・辰己佳寿子准教授が、それぞれ「大学の知を活用した国際協力」「中国５県における大学の国際協力活動」「やまぐち国際協力の里ネットワークについて」と題し、問題提起を行いました。その後行われたパネルディスカッションでは、山口県立大学などの地方大学で国際関係に携わっている教授や、山口発の国際協力プロジェクトを企画した企業の代表などがパネリストとして参加し、「『知の国際化、知の共有』と地方大学」をテーマとし、各団体の国際交流および国際協力活動の経験を踏まえ、地方大学がどのように「知の国際化、共有化」に貢献できるかを議論しました。また、各大学の教職員、山口市、ひらかわの風の会などの方々が、それぞれの立場から、貴重なご意見を述べられ、今後の示唆を得ることができました。大学の「知」といえる研究、人材、ネットワークなどのリソースや、地方大学の利点を存分に生かして、国際協力・活動をすることの重要性や課題を再認識した有意義な時間となりました。

○「第８回東アジア学術講演会～東アジアの中の中国・韓国・日本―引き揚げを題材として―」を開催！（掲載日：2011/08/08）

７月 26 日（火）、人文学部大講義室で、韓国ソウル大学で人類学を教える全京秀教授による講演会「第８回東アジア学術講演会～東アジアの中の中

国・韓国・日本―引き揚げを題材として―」を開催し、教職員、学生等約 150 人が参加しました。

全教授は、専門の人類学の分野で、全世界をフィールドワークした豊富な経験と幅広い研究で知られ、最近では百歳の人類学の研究をまとめられています。７月１日から３ヵ月間、本学に東アジア研究科外国人研究員として滞在する機会を利用して、この講演会を開催しました。

講演の中で全教授は、聞き取り調査などのフィールドワークをもとにした、貴重な資料を公開しながら、戦後の中国、韓国からの引き揚げ者にまつわる日・中・韓３国間のやり取りや、引き揚げ者に関するデータなどを紹介されました。

また、日本人で引き揚げをテーマに研究している人はいないと述べた上で、過去を「鏡」とし、現在・未来の進むべき道を考えていく上で、この研究は重要であると強調されました。

東アジア研究科では今後も学術講演会を定期的に開催し、東アジアの歴史、文化、経済への理解を深めていきます。

○中国人留学生留学宇部 20 周年記念謝恩会（掲載日：2011/08/29）

８月１５日（月）、宇部市内のホテルで、本学工学部の中国人留学生 OB・OG らによる「中国留学生留学宇部２０周年記念謝恩会」が開催され、丸本学長をはじめ、松田副学長（宇部留学生交流会会長）、留学生センター教員、元指導教員、宇部留学生交流会幹事、宇部市のボランティア「ふれあいボランティア」、「グループこんにち輪」のメンバーら 19 人が招待され、出席しました。

この会は、本学工学部を卒業した中国人留学生の張振家氏（上海交通大学）が、平成３年に工学部に入学して以来、今年で 20 年になるのを機に、お世話になった方々に感

謝の気持ちを表したいと発起人となり、同じく本学卒業生である王均、王躍、常健宇、劉本柱、劉軍（工学部）、および崔丹（医学部）の７人とともに開催したもので、計 15 人の卒業生が、家族とともに、上海、広州、東京から集まりました。

謝恩会の中で、丸本学長は、「将来山口大学主催で、ぜひ皆さんに山口に戻ってきていただく機会を作りたい」と留学生ネットワーク構想について述べました。卒業生たちは、山口大学、宇部市民および宇部市に対してあらためて感謝の念を表し、また、水を飲むたびに水源を思い出し、感謝の気持ちを忘れないという中国の格言「飲水思源」の文字が刺繍されたスカーフを、記念品として出席者に一人ひとりに手渡しました。元留学生たちは、在学中の苦労話や、先生方やボランティアに支えられて無事に卒業できた喜び、また、卒業後、企業や大学などで活躍している近況などについて語り合い、15 年ぶりの再会を、涙を流して喜び合っていました。

留学生代表挨拶

挨拶をする丸本学長

元指導教員および浮田正夫宇部国際環境協会会長との懇談

感謝の気持ちを表す卒業生と家族

「宇部のお母さん」として慕われている「ふれあいボランティア」の大久保和子さん（右端）

○丸本学長らが中国山東大学および首都師範大学を訪問（掲載日：2011/11/04）

①山東大学 110 周年記念式典および山東大学帰国研究者・留学生同窓会に出席（13～15 日）

丸本学長、松田副学長（国際・社会連携担当）ら８人が、10 月 13 日～17 日中国を訪問しました。

一行は 10 月 13 日～15 日、山東省済南の山東大学を訪れ、山東大学 110 周年記念式典および国際交流フェアに出席しました。

山東大学は、本学が学術交流協定を締結した最初の海外の大学で、今日まで 30 年以上もの長きにわたり交流を深めてきました。14 日、山東大学と協定を結ぶ大学約 30 校が参加して国際交流フェアが開催され、開会式では、丸本学長が参加大学を代表して挨拶し、「山東大学と山口大学の交流の歴史は古く、山口大学は、山東大学を交流のある海外の大学の中でもっとも重要な大学のひとつとして位置付けている」と述べました。会場には、各大学のプロモーション用ブースも設けられ、山口大学のブースにも多くの山東大学の学生が訪れて、入試制度について質問するなど大変な盛況ぶりでした。同日の夜には、過去山口大学に留学・滞在経験のある山東大生、卒業生および教職員 30 人余りが集まり、同窓会発起会が催されました。中国での同窓会立ち上げは、元留学生らに中国に帰国してからもつながりを持ち続けてもらおうと企画されたもので、2015 年の山口大学創基 200 周年に向け、同窓生の結束も高まりを見せ、会では今後も同窓会を開催していくことが宣言されました。翌 15 日には、110 周年記念式典が盛大にとり行われ、参加者全員で山東大学の伝統と発展を祝い、会場は祝賀ムードに包まれました。

②首都師範大学と学術交流協定調印、山口大学北京オフィスの開設、中国帰国研究者・留学生同窓会に出席（16～17 日）

一行は 16 日北京に移動し、山口大学からの帰国研究者および留学生による同窓会に出席し、約 40 人が参加者とともに旧交を温めました。翌 17 日には、首都師範大学との学術交流協定の調印式が行われ、今後の取り組みについて合意し、両校の交流の発展を誓い合いました。また、調印式終了後、山口大学北京国際連携オフィスの開所式が行われ、山口大学の北京における新たな拠点としての一歩を記しました。これにより、今後、中国の大学との交流がますます充実するとともに、多くの留学生が山口大学へ入学することが期待されます。

今回の訪問では、山東大学、首都師範大学の両校と、渡日前入試の実施を含めた実質的な議論も進み、交流活動の具体化につながる有意義な中国訪問となりました。

○山口大学国際月間特別講演会「マレーシア：国際パートナーとしての可能性」に 150 人の参加者がありました　（掲載日：2011/11/07）

山口大学は「大学の知」と「地域の持つ経験や知恵」を結び、主としてアジアの国々との国際協力を進めており、毎年 10 月を「国際月間」に定めています。今回は「国際月間」の行事として、10 月 25 日（火）、外務省地球環境問題担当大使・堀江正彦氏を講師にお招きし、特別講演会を開催しました。堀江大使は本年４月まで駐マレーシア日本大使を務めておられたことから、「マレーシア：国際パートナーとしての可能性」と題してご講演いただきました

日本を手本にして経済や社会の発展に成功してきたマレーシアは、日本人にも馴染みが深く、山口県の企業を含め多くの日本企業がマレーシアをパートナーとして活発な経済活動を展開しています。こうしたマレーシアについてもっと知りたいと、講演会には山口県、民間企業７社、市民の方々、また、丸本卓哉学長以下大学教職員、学生約 150 人が参加し、熱心に堀江大使の講演に耳を傾けました。

なお、本講演会は「ODA 出前講座」として外務省のご協力を得て開催しました。

○第５回 Young Scientist Seminar（若手研究者セミナー）を開催（掲載日 2011/12/05）

11 月 22 日（火）、23 日（水）、山口県セミナーパークで、第 5 回 Young Scientist Seminar（若手研究者セミナー）を開催し、10 カ国からの外国人若手研究者や留学生 45 人を含む総勢 102 人の参加がありました。

本セミナーは、若手研究者の育成のためにアジア研究教育拠点事業「微生物の潜在能力開発と次世代発酵技術の構築」（2008 年度から 2012 年度）の一貫として開始され、一般的な生物学を研究対象とした若手研究者が集まってそれぞれの研究成果を英語で口頭発表し、討議を行うものです。

１日目は、始めに実行委員長の Suprayogi （医学系研究科(博士課程)）と松田博副学長（国際・社会連携担当）の挨拶があり、続いて、4 題の一般講演やグループ討議が行われました。2 日目は「海外生物遺伝資源の利用と利益配分」に関する特別講演２題と一般講演 2 題があり、その後、グループのそれぞれから選ばれた若手研究者の研究発表が行われ、Mr. Abdel rahman M. （農学研究科(修士課程)）が Best Presentation Award を獲得しました。

○「外国人留学生懇談会」を開催しました（掲載日：2011/12/06）

11 月 25 日（金）、本学に在籍する外国人留学生と外国人研究者を激励し、交流を促進するため、学長主催による「外国人留学生懇談会」を開催しました。留学生の増加に伴い、今年も約 300 人の参加者があり、にぎやかな会となりました。

この「外国人留学生懇談会」は第１部と第２部の２部構成となっており、第１部では５ヵ国の学生がそれぞれの母国の特徴や日本文化との違いについて、日ごろ勉強している日本語と英語により紹介が行われ、笑いもしばしば起こる大変楽しいものとなりました。

第２部は、第２学生食堂・きららに会場を移し、外国人留学生・研究者・その家族の参加で大変にぎやかな懇談会になりました。民族衣装を着た留学生もおり、日本人学生・教職員、平川地域の方々との交流が行われ、大いに盛り上がった会となりました。

会場では、バングラデシュやインドネシアの留学生による歌の披露や日本人学生による邦楽の演奏やよさこい踊りがあり、参加者の注目を集めていました。

○丸本学長が台湾逢甲大学 50 周年記念行事に出席（掲載日：2011/12/12）

11 月 10 日（木）～13 日（日）、丸本学長が、台湾・台中市にある逢甲大学を訪れ、50 周年記念関連行事に出席しました。逢甲大学は、台湾屈指の私立総合大学で、7 年連続台湾教育部の教学卓越プロジェト補助金の上位受賞校です。本学とは、平成 21 年 9 月に協定を締結し、相互に学生を受け入れるなど、交流を推進しています。

丸本学長は農学部黄鴻堅教授の随行で、まず、11 月 10 日に、逢甲大学の張保隆学長と会見し、50 周年を祝して、記念品の大内人形を贈りました。翌 11 日には、中国、台

湾の大学の学長らとともに、学長フォーラムに出席し、キャンパスの環境保全、省エネ等、いわゆるグリーンキャンパス概念について意見交換を行い、丸本学長は、山口大学におけるキャンパス整備計画、節電等の取り組みについて紹介しました。また、逢甲大学の張仲明理事長と意見交換を行いました。

12 日には、50 周年記念行事が盛大に執り行われました。記念式典では、丸本学長は参加校を代表して挨拶し、「過去 50 年の貴学の素晴らしい業績を称え、今後、交流が益々発展するように努力したい」と述べました。逢甲大学は、世界中に 15 万以上の同窓生を有しており、今回の 50 周年記念行事には欧米や東南アジアからたくさんの同窓生が母校に里帰りしました。式典は、終始和やかな雰囲気の中、参加者全員で、逢甲大学の伝統と業績を祝し、今後の発展を祈念しました。同夜行われた晩さん会では、約 1700 人の来賓や同窓生が参加し、逢甲大学の 50 周年記念ケーキへの入刀が行われました。
また、学長は、102 才になった逢甲大学の廖英鳴前学長および前理事長に会い、お祝いの言葉を述べました。

なお、このたびの逢甲大学構内の案内やさまざまな行事の接待において、同大学の楊龍士副学長、李秉乾副学長および游慧光国際部長が交代で随時丸本学長に付き添いました。

丸本学長は、50 周年記念行事以外にも、現地で、台中市に近い彰化県にある大葉大学に置かれた、山口大学在台湾国際連携オフィスの担当者黄英哲先生とも会う機会を持ち、情報交換を行うなど、有意義な時間を過ごしました。大葉大学とは、同じく平成 21 年 9 月に学術交流協定を結んでいます。
これをきっかけに、逢甲大学をはじめとする台湾の大学との友好関係がますます深まることが期待されます。

○平成 23 年度外国人留学生見学旅行（掲載日：2011/12/26）

12 月 17 日（土）～18 日（日）、外国人留学生見学旅行を大分県（湯布院、別府等）で実施し、外国人留学生 128 人、引率者 6 人が参加しました。この旅行は、外国人留学生が日本の文化や歴史を体験から学ぶ事を目的として毎年行っているものです。

初日は、湯布院散策や別府地獄巡りをし、日本の文化や自然を満喫しました。また、ほとんどの外国人留学生にとって旅館での宿泊が初体験ということで、温泉や浴衣など日本文化を体験できる絶好の機会となりました。そして夕食時には、伝統的な湯布院神楽が披露され、多くの外国人留学生が箸を止めて写真撮影をするなど、大いに盛り上がりました。

2 日目は、杵築市、豊後高田昭和の町、および宇佐神宮を訪問し、城下町および昭和の街並みの見学や抹茶体験をしました。

1 泊 2 日という過密なスケジュールでしたが、外国人留学生たちは充分に楽しみながら、日本の文化と歴史を実体験していました。また、外国人留学生同士の交流を深めることもできた貴重な 2 日間となりました。

○サラワク大学から工学部副学部長らが丸本学長を表敬訪問（掲載日：2012/03/05）

２月 23 日（木）、マレーシアサラワク大学から、工学部副学部長の Al-KHALID BIN HAJI OTHMAN 氏と HUSHAIRI HJ ZEN 氏、同学部講師の NORDIANA BT RAJAEE 氏が来学し、丸本学長、吉田理事、松田副学長（国際・社会連携担当）を表敬訪問しました。

サラワク大学と本学は、株式会社トクヤマの資金援助を受け、共同研究プロジェクトの立ち上げや、サラワク大学から山口大学への工学系留学生の奨学金制度の設立等に向けて、３月末に学術交流協定を締結する予定です。このたびの訪問では、今後の交流についての打合せ、協定書の内容確認も行われました。

トクヤマは、現在サラワク州に工場を建設中で、同社には、山口大学を卒業したマレーシア人留学生が数名就職していることも、今回の三者交流の契機となっています。

表敬訪問では、まず、留学生センターの福屋教授から、サラワク大学との交流の経緯の説明があり、丸本学長が、「将来の交流の発展を期待する。山口で有意義な時間を過ごしてほしい」と挨拶しました。また、訪問団を代表して、HUSHAIRI HJ ZEN 氏が、「山口大学とサラワク大学との提携が、学問的にも研究面でも有益なものになることを望む」と述べました。

引き続き、関係者で協定書の内容の協議を行い、協定締結に向けての準備が進められました。

交流は、まず、工学系の学生の受入れからスタートしますが、今後、セミナーの開催、研究者交流等を通じ、サラワク大学との友好関係が発展することが期待されます。

○第２回日越学長会議に松田副学長が出席　（掲載日：2012/03/23）

３月 12 日～13 日、京都大学で第２回日越学長会議が開催され、松田副学長（国際・社会連携担当）が出席しました。同会議は、日越両国の高等教育交流の発展を目指して、2009 年にスタートしたもので、２年ごとに日本とベトナムで交互に開催されています。このたびの会議には、ベトナムから教育訓練省（MOET）や 19 の大学の代表 73 人が、また、日本からは 42 大学 90 人が参加しました。

初日は、午前中に、ベトナム特命全権大使や文部科学副大臣らからの歓迎挨拶に続き、参加者による基調講演が行われ、午後からは３つの分科会に分かれて意見交換を行いました。

山口大学は、分科会２「ベトナムとの教育における協力と教育の質保証」に参加し、松田副学長が議長を務める中、日越それぞれ５大学が、ベトナムとの交流の現状、国際交流プログラムの紹介、日本との交流に関する要望や、ベトナムにおける教育の質保証のため

の課題等について発表を行いました。その後、全員で意見交換を行い、ツイニングプログラムの有用性、日本へ留学を希望するベトナム人学生への日本語教育、日本人学生のベトナム留学推進などについて、さまざまな課題や提案が示され、日越の大学の協力関係をより一層発展させる必要があるとの結論に至りました。

２日目は、各議長が初日の分科会の発表を行い、今後の交流の強化や可能性について、突っ込んだ議論がなされ、中身の濃い会議となりました。

その後、日越大学間の学術交流協定調印式が行われ、会議は大成功のうちに終わりました。2013 年には、ベトナムで第３回目の会議が予定されており、今後、本学においてもベトナムとの交流をより一層推進していく予定です。

〇マレーシアサラワク大学と学術交流協定を締結（掲載日：2012/04/16）

３月 29 日（木）、マレーシアサラワク大学（UNIMAS）で、本学との学術交流協定調印式が開催され、松田副学長（国際・社会連携担当）、留学生センター福屋教授が出席しました。

UNIMAS は、同日、株式会社トクヤマの白神顧問出席のもと、同社とも協定を締結しています。これにより、サラワク大学の工学系の大学院生が株式会社トクヤマから資金援助を得て山口大学に留学し、最終的には、サラワク州にある株式会社トクヤマの多結晶質シリコンの工場で働くことができるというシステムが確立されました。

株式会社トクヤマのサラワク工場は、来年稼働開始予定で、300 人の現地スタッフを雇用する計画です。

本学との協定の活動内容には、共同研究、学生およびスタッフの交流、学術情報・出版物の交換、セミナーの開催などが含まれますが、株式会社トクヤマは、学生の奨学金だけでなく、高品質のバックアップ電源に関する共同研究への助成金も提供する意向を示しており、今後、電力に関する研究がさらに推進されることになります。

調印後、松田副学長は、「この協定によって、マレーシアの学生の間で、山口大学の知名度が上がることが期待される。山口大学は、株式会社トクヤマの工場が必要とする人材を育成することに尽力します。」と挨拶しました。

UNIMAS は、学生や教員に、この協定を最大限利用するよう奨励しており、マレーシアの東方政策３０周年も追い風となり、山口大学、サラワク大学、株式会社トクヤマの三者交流・協力体制が今後発展していくことが期待されます。

○丸本学長一行が韓国･インドネシア･ベトナムを歴訪(3 月 24 日～28 日)(掲載日:2012/04/26))

3 月 24 日（土）、丸本学長、松田副学長（国際・社会連携担当）、大澤アドミッションセンター講師、原田国際・社会連携課長が、ソウル市内の韓国同窓会発会式に続き韓国帰国研究者・留学生交流会に参加しました。同窓会長に選出された白元珍氏（全南大学副教授）他 43 人の帰国研究者・留学生に向けて、学長からの「同窓会の立ち上げによって、学生、研究者の交流の活性化を期待している。2015 年の創基 200 周年記念事業にも参加してほしい。」との挨拶の後、2 時間余りにわたり同窓生と本学からの出席者が交流を深めました。

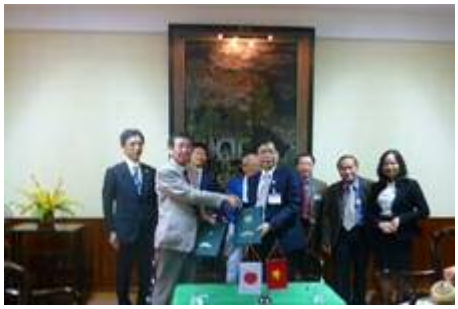
3 月 26 日（月）には、丸本学長、原田国際・社会連携課長が大学間学術交流協定校のウダヤナ大学（インドネシア）を訪問しました。大学院理工学研究科の三浦房紀教授、田中佐特命教授、鈴木素之准教授らも参加して、環境保護に関するミーティングが行われました。ミーティングでは、丸本学長、ウダヤナ大学メリット教授の基調講演のあと、インドネシア森林省、JICA、竹林環境基金等による環境保護活動報告、質疑応答があり、さらに、丸本学長も参加している環境保全に向けた共同研究プロジェクトの活動計画に関する協議などが行われました。

3 月 27 日（火）には、デンパサールの北 50 kmほどにあるバトゥール山山麓の共同研究プロジェクトのテスト・サイトの視察を行いました。

また、3 月 28 日（水）には、ハノイ農科大学（ベトナム）を訪問し、午前中は、シャン・トラチ副学長らと両大学の紹介、交流協定内容の確認を行った後、調印式が行われ、丸本学長、トラン・ドゥク・ヴィエン学長が、大学間学術交流協定書にサインをしました。調印式後には、交換留学生の話など今後の交流推進についての協議を行いました。

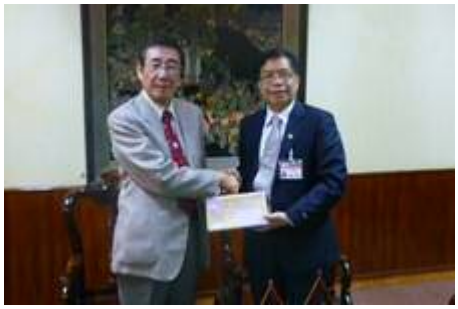
午後は、本学に在籍した経験を持つミン先生らとともに同大の農業科学コンサルティング会社を訪問し、共同研究プロジェクトの推進などについて協議を行いました。

韓国帰国研究者・留学生交流会



参加者の記念写真（ウダヤナ大学）

テスト・サイトで打ち合せをする学長（左から 2 人目）



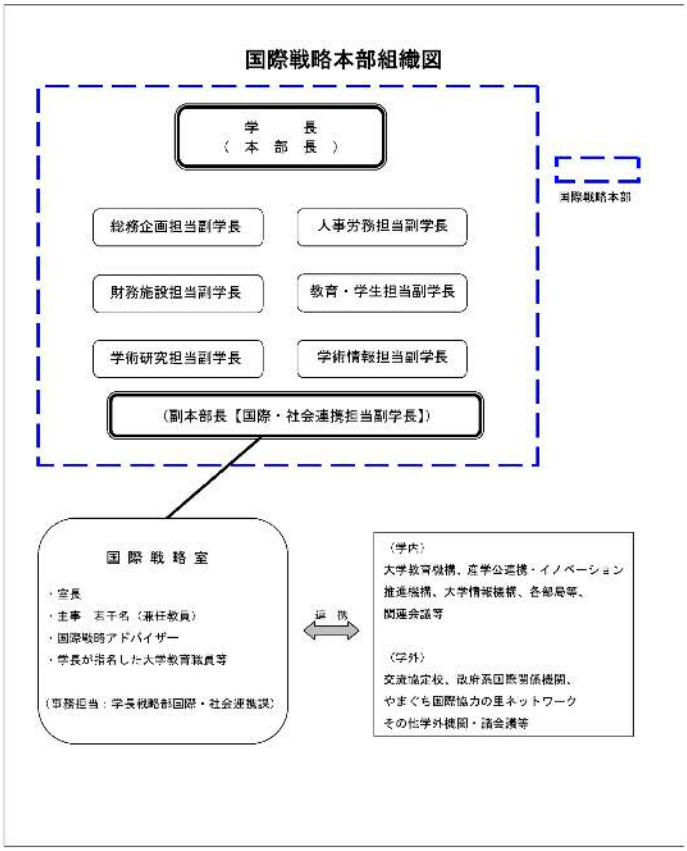
ハノイ農科大学での調印式の様子

2. 国際戦略本部及び国際戦略室

(1) 国際戦略本部、国際戦略室の組織と役割

2008 年 4 月に学長を本部長とする国際戦略本部が設置され、国際化に関する大学としての企画立案体制が整備された。また、国際戦略本部の下に、学長特別補佐、教員及び職員を構成員とする国際戦略室(以下、「戦略室」)を置き、国際戦略の企画立案を推進することとされた。2010 年より副学長が増えたことに対応して、国際戦略本部の構成員も変更され、国際・社会連携担当学長特別補佐に代わり新設された副学長（国際・社会連携担当）が国際戦略副本部長、国際戦略室長となっている。さにに、国際戦略室の活動を支援するための事務組織として、総合企画部国際・社会連携チームが置かれていたが、2012 年から、学長戦略部国際・社会連携課に名称を変更し、より一層学長の意思を反映できる体制を整えている。

国際戦略本部、国際戦略室の関係及び各構成員は、次の組織図のとおりである。



国際戦略本部、国際戦略室の業務は次のように定められている。

・国際戦略本部の業務

(1) 教育研究活動における国際的な活動に係る国際戦略に関すること。

(2) その他国際戦略に関する重要な施策に関すること。

・国際戦略室の業務

(1) 国立大学法人山口大学の国際連携に係る企画，立案及び実施に関すること。

(2) 国際交流に関する情報の収集，整理及び提供に関すること。

(3) 国際協力に関すること。

(4) 学術交流協定に基づく活動の推進に関すること。

(5) 海外に向けた大学の国際交流に係る情報の発信に関すること。

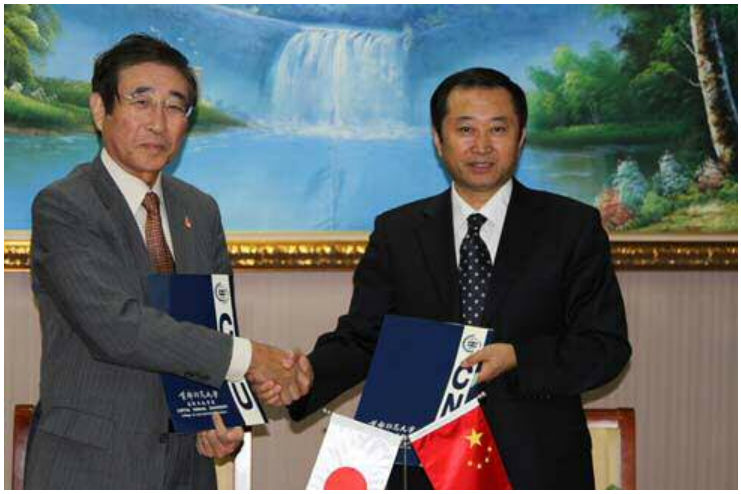
(6) その他国際戦略活動に係る重要事項に関すること。

3. 学術交流協定

(1) 2011 年度の学術交流協定の締結等

2011 年度は学術交流協定を 10 大学(大学間 5 大学、学部間 5 大学) と締結し、15 の大学(大学間 6 大学、学部間 9 大学)と更新した。

その結果、2012 年 3 月末現在で、大学間では、13 ケ国、45 大学・機関と学術交流協定を締結、学部間では、本学の 6 学部、2 研究科、附属病院が 16 ヶ国、46 件の学術交流協定を締結していることとなった。



【2011.10　首都師範大学との協定締結後、宮輝力副学長（右）と握手を交わす丸本学長（左)】

(2) 大学等間学術交流協定一覧

国・地域名	機関名（英語表記）	締結 年月日	学生交流 覚書
インドネシア	ブラウィジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	有 （理工学研究科）
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有 （理工学研究科）
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ehwa Woman's University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03	有
	ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)	2001.10.29	有

タイ	コンケン大学 (Khon Kaen University)	2001.10.30	有
	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2001.10.31	有
	シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)	2001.11.01	有
	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	有
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing Institute of Technology)	2010.11.19	有 （工学部）
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	陽明大学 (National Yang Ming University)	2009.11.20	

ベトナム	教育訓練省 (Ministry of Education and Training of Vietnam)	2009.03.30	
	ダナン大学 (University of Danang)	2009.09.17	
	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	
	ハノイ農業大学 (Hanoi University of Agriculture)	2012.03.29	
マレーシア	サラワク大学 (Universiti Malaysia Sarawak)	2012.03.29	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有 （教育学部）
	ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ (University College London)	2007.11.19	
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学 (Friedrich-Alexander University, Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
エジプト	カイロ大学 (Cairo University)	2012.02.12	
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
オーストラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有 （工学部）

(3) 部局等間学術交流協定一覧

国・地域名	締結部局	機関名 （英語表記）	締結 年月日	学生交流 覚書
インドネシア	理工学 研究科	バンドン工科大学　建築・計画政策開発学部 (School of Architecture, Planning and Policy Development, Institute Technology Bandung)	2008.03.14	
韓国	教育学部	釜山大学校　師範学部 (College of Education, Pusan National University)	2010.06.21	
	理学部	韓国天文研究院　電波天文研究部 (Korea Astronomy and Space Science institute)	2010.03.15	
	工学部	忠北大学校　工科大学 (College of Engineering, Chungbuk National University)	2001.10.10	
		全北大学校　工科大学 (College of Engineering, Chonbuk National University)	2004.03.19	
		又松大学校　鉄道大学 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
	農学部	忠南大学校　農業生命科学大学 (College of Agriculture and Life Science, Chungnam National University)	2000.05.18	
	医学部 附属病院	朝鮮大学校　病院 （Chosun University Hospital）	2006.09.22	有
タイ	医学部	マヒドン大学　看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
		マヒドン大学　検査技術学部 (Faculty of Medical Technology, Mahidol University)	2006.10.1	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校　生物資源工学研究所 (School of Bio resources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術･地域開発学部 （Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
中国	教育学部	復旦大学　情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	遼寧大学　経済学院 (College of Economics and Management, Liao Ning University)	1996.10.17	

中国	経済学部	中国人民大学　経済学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
	医学部	吉林大学　中日聯誼病院 (China-Japan Union Hospital of Jilin University)	2009.09.25	
		大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学　環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学　関連工科系学院 (The Graduate Schools on Science and Engineering, Xihua University)	2007.02.05	有
	農学部	新疆畜牧科学院 (Xinjiang Academy of Animal Sciences)	1991.09.02	
		東北師範大学　都市・環境科学学院 (School of Urban and Environmental Science, Northeast Normal University)	2010.04.15	
	東アジア研究科	復旦大学　日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	
台湾	経済学部	正修科技大学　管理学部・人文社会学部 (College of management ; and department of sports, health and leisure, college of humanities and social science, Cheng Shiu University)	2010.01.14	
		国立高雄餐旅大学 National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism	2012.03.09	
	医学部	国立台湾大学　医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	農学部	国立台湾大学　生命科学学院 (College of Life Science, National Taiwan University)	2007.08.09	
ネパール	農学部	トリブバン大学　農畜産学部 (Institute of Agriculture and Animal Science, Tribhuvan University)	2010.01.27	
バングラデシュ	経済学部	ダッカ大学　公共管理学部 (Department of public administration, University of Dhaka)	2008.09.22	
	理学部	バングラデシュ　核エネルギー食物･放射線生物学研究所 (Atomic Energy Research Establishment Institute of Food and Radiation Biology)	2000.05.04	
バングラデシュ	農学部	ジャハンギナガール大学生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahanginagar University)	2012.03.06	
ベトナム	理学部	ハノイ理工科大学　応用数学・情報科学部 (Faculty of Applied Mathematics and Informatics, Hanoi University of Science and Technology)	2010.11.20	有

ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学　言語学部 (Faculty of Philology, Ivan Franko National University of Lviv)	2004.11.16	有
イギリス	教育学部	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2008.03.11	
	経済学部	ヨーク大学　経済学部及び関連領域学部 (Dept. of Economics and Related Studies, The University of York)	1993.01.20	
	工学部	ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ　工学部 (The Faculty of Engineering Sciences, University College London)	2007.01.17	
		セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2008.03.01	
		ブリストル大学　工学部 (The Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ハンガリー	農学部	ウエストハンガリー大学　農業食品科学部 (Faculty of Agricultural and Food Sciences, University of West Hungary)	2011.11.09	
アメリカ	経済学部	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2009.01.09	
	医学部	テキサス大学　ヒューストン健康科学センター看護学部 (Health Science Center at Houston, University of Texas)	1999.03.29	
		バージニア大学　看護学部 (School of Nursing, University of Virginia)	2000.11.06	
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学　理学部 (Faculty of Science, The National University of La Plata)	2011.04.27	
ブラジル	理学部	パウリスタ総合大学 (Faculty of Science, The National University of LA Plata)	2001.10.31	有
オーストラリア	教育学部	キャンベラ大学 (University of Canberra)	1994.03.15	有
ニュージーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Crop & Food Research Limited)	2008.09.03	

4. 海外拠点

最近では多くの日本の大学が、留学生募集や、海外の大学との共同研究拠点、共同授業提供などを目的として、海外に事務所を開設するようになった。山口大学でも交流協定校との連携協力によるサテライトオフィスを、2004 年 10 月に中国の北京師範大学、2005 年 3 月に山東大学に設置して来た。主な活動は留学情報の提供である。

2009 年度には、海外外拠点の実質化を目指すと共に、拠点事務所を増やすとの方針で、先の 2 大学にインドネシア、台湾の 3 大学を加えた。

さらに、2011 年度には、中国における渡日前入試の実施のために、北京の首都師範大学内に海外拠点を設置し、以下のとおり計 6 拠点の体制とした。

①「山口大学　北京国際連携オフィス」

住所：中国 100875 北京市新街口外大街 19 号北京師範大学内

②「山口大学 北京国際連携オフィス」

住所：中国 100048 北京市西三环北路 105 号首都師範大学内

③「山口大学　山東国際連携オフィス」

住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号山東大学内

④「山口大学　バリ国際連携オフィス」

住所：Udayana University Kampus Bukit Jimbaran Denpasar, Bali, Indonesia

⑤「山口大学　ジョグジャカルタ国際連携オフィス」

住所：Gadjah Mada University Jl. Fauna No.2 Karangmalang Yogyakarta, 55281 Indonesia　【http://www.yuico-indonesia.com/】

⑥「山口大学　台湾国際連携オフィス 」

住所：大葉大学内台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内

【http://www.dyu.edu.tw/~yuicot/all%20yuico.html】

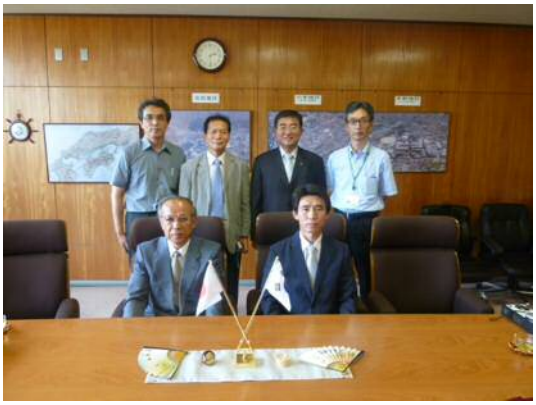
山東国際連携オフィスのプレート

ジョグジャカルタ国際連携オフィス作成の
山口大学紹介のリーフレット

5. 本部への海外からの来訪者

(1)本部への海外からの来訪者一覧

日時	訪問者	国・地域名
2011.5.16	駐広島韓国総領事館　辛　亨根　総領事	韓国
2011.6.2	レンヌ第２大学　アンベール雨宮先生	フランス
2011.6.10	JENESYS プログラム	インド
2011.7.26	ウエストハンガリー大学　Prof. Dr. Borisz EGRI	ハンガリー
2011.8.11	忠北大学校工学部 Kim DooHyun 教授（副学部長）	韓国
2011.9.9	オーストラリア大使館 Mr. Carl Herse (Counsellor Political)	オーストラリア
2011.9.29	ダバオオリエンタル州立科学技術大学 Dr. Lea Angsinco Jimenez	フィリピン
2011.10.11	JICA 獣医技術研修員　視察	カンボジア、コソボ ミャンマー、トンガ、ウガンダ
2011.12.11-12.16	山東大学 SD 研修受入　３名	中国
2012.2.3	山東大学合作発展部常務副部長　井海明教授	中国
2012.2.23	サラワク大学工学部 Al-KHALID BIN HAJI OTHMAN 副学部長	マレーシア
2012.3.5	バンドン工科大学 経営大学院・大学院研究科長 Professor Sudarson Kaderi WIRYONO	インドネシア



忠北大学校　副学長訪問

サラワク大学 工学部副学部長訪問

ウエストハンガリー大学　教授訪問

JICA 獣医技術研修者訪問

6. 本学学長等の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2011.9 月	ウダヤナ大学訪問 第 3 回生命科学・生物工学国際シンポジウム講演	インドネシア
2011.10 月	山東大学 110 周年祝賀会、国際交流フェア出席 山東・北京　山口大学海外同窓会発足式 首都師範大学との大学間協定調印式 山口大学北京国際連携オフィス開所式	中国
2011.11 月	逢甲大学　開学 50 周年記念式典出席 FCU University President Forum 出席	台湾
2012.3 月	韓国　山口大学海外同窓会発足式	韓国
2012.3 月	ウダヤナ大学訪問 大学間共同プロジェクトの実施	インドネシア
2012.3 月	ハノイ農科大学訪問 大学間協定締結式	ベトナム

7. その他

(1)山口大学「国際月間」

山口大学の全学生、教職員が、大学の国際関連の各種取り組みを理解し、山口大学の活動として支援、参加することを目指して、2009 年度より 10 月を山口大学「国際月間」に制定しました。10 月を国際月間に定めた理由は、10 月 6 日が日本の「コロンボ・プラン」加盟を記念し「国際協力の日」とされている、国連が 10 月 16 日を「世界食糧デー」、17 日を「貧困撲滅のための国際デー」に定めている、10 月 24 日は国連憲章の発効を記念した「国連デー」であることからである。

2011 年の国際月間中に、山口大学学生、教職員が次の事業を実施した。

・10 月 25 日（火）、山口大学国際月間「特別講演会」

堀江 正彦外務省地球環境問題担当大使（前:在マレーシア日本大使）を講師に迎え、『マレーシア：国際パートナーとしての可能性』と題して講演会を開催し、一般市民を含む、計 56 人（学生 11 人、教職員 20 人、一般市民 25 人）が参加した。

【外務省地球環境問題担当大使
（前：在マレーシア日本大使）堀江　正彦　氏】

【マレーシアとの国際関係に興味を持つ聴講者が多く集まった】

(2)国際協力活動推進プラットフォーム

国際協力活動に関心を有する山口大学教職員の有志が、地域を含めた国際協力活動の推進役としての役割を担う目的で、2007 年 11 月に「国際協力活動推進プラットフォーム」を発足している。プラットフォーム会員数は、2012 年 3 月現在で約 50 名となっている。発足以来、国際協力関係有識者による講演、意見交換会の開催、国際協力事業説明会の開催、会員の海外派遣(各種調査、協力活動)、研究者の招聘、会員の国際協力関係の研修参加等を行っている。

国際協力活動推進プラットフォームの 2011 年度の主な活動は以下のとおりである。

・JICA が主催する留学フェア参加。（モンゴル、ラオス、カンボジア）
・モンゴル高等教育事情調査。
・カンボジア王国基礎教育支援事業調査。
・中国山東大学高等教育研究センターにおける講義提供及び交流推進。
・インドシナ地域における拠点・支援大学の教育実態調査と相互交流。

・山口大学を核とする産官学協働の日越（ベトナム）国際協力事業。
・メコン川上流域におけるプロジェクト形成予備調査。
・「山口大学国際月間特別講演会」協力。
・「山口大学の国際化を考えるシンポジウム」協力。

(3)国際会議、国際シンポジウムの開催

山口大学の教員・研究者が海外の大学を訪問し、また海外で開催される各種学会・シンポジウム等に参加するばかりでなく、海外の研究者が参加する国際シンポジウム等を、山口大学が中心となって大学や周辺地域において開催する機会が年々増えてきている。2011年度においては次表のとおり 3 件の国際シンポジウムが開催された。

国際シンポジウム等開催状況（2011 年度）

	名称	期日
1	第 5 回 山口大学国際シンポジウム 「知の国際化、知の共有を目指して～地方大学に出来ること」	2011/7/19（火）
2	3 都市 3 大学国際シンポジウム	2011/11/11（金）
3	第 6 回 山口大学国際シンポジウム 「地方大学における国際化への取り組みについて」	2012/3/9（金）

(4)政府開発援助（ODA）との連携

山口大学では、「国際協力銀行」（ODA 担当部門は、2008 年 10 月に「国際協力機構（JICA）」と統合した。）との間で、2004 年 5 月 7 日に「国際協力銀行と山口大学との海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結し、また教育学部、経済学部が JICA（中国国際センター）との間で 2006 年 3 月 27 日に「JICA 中国国際センターと山口大学との連携協力覚書」を締結している。（※これらは「独立行政法人国際協力機構と山口大学との間の連携協定」に 1 本化し、本学学長と JICA 理事長の間で 2010 年 6 月 1 日に署名・締結された。）

こうした ODA 実施機関との連携も踏まえ、山口大学は現在まで以下のとおり ODA 事業の実施に協力してきており、2010 年度における実績は以下のとおりである。

・無償資金協力による留学生受入(JDS プログラム) : バングラデシュより 2 名（経済学研究科公共管理コース）。2002 年以降毎年 JDS プログラムによる留学生を受入、現在までにバングラデシュから 24 名、インドネシアから 3 名、フィリピン 1 名の計 28 名受入れている。(在学生を含む。)

・有償資金協力（円借款）による留学生受入：理工学研究科では、ダブル・ディグリーを基本とする Linkage Program で、インドネシアから 1 名を受け入れた。本制度による受入は 2007 年度に開始され、2007 年度 3 名、2008 年度 2 名、2010 年度 3 名の計 9 名を受け入れている。(在学生を含む。)　なお、前項公共管理コースでも、同様に、2011 年度にインドネシアと Linkage Program による留学生 6 名を受け入れた。
・技術協力による留学生受入：経済学部では、未来への懸け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACE プロジェクト）により、アフガニスタンから留学生 1 名を受け入れた。
・研修員受入：農学部において、日系研修員(ボリビア 9 ヶ月)、工学部において短期研修員(東ティモール、2 名)。
・JICA 協力授業：経済学部において「国際協力論」を開講。JICA より職員、専門家経験者、協力隊帰国隊員の講師派遣。本授業は 2006 年度から開講している。
・JICA 後援イベント：山口大学国際シンポジウム。
・青年海外協力隊：学生を対象とする特別募集説明会の開催、協力隊募集ポスターの掲示。自主活動ルームコーディネーター、国際戦略室教員による希望学生指導。

(5) ODA 事業との連携実績

①留学生受け入れ

プロジェクト	受入学部・研究科	対象国・地域
○人材育成支援無償（JDS）による留学生の受入	経済学研究科	バングラデシュ
○有償資金協力（円借款）による留学生の受入		
・高等教育基金借款事業（Ⅲ）	工学部	マレーシア
・国立イスラム大学	医学系研究科	インドネシア
・高等人材開発事業（Ⅲ）	理工学研究科	インドネシア
	経済学研究科	インドネシア

②技術協力プロジェクト

プロジェクト	形態	分野	対象国・地域
カンボジア日本人材開発センター（H16 年 4 月 1 日～H21 年 3 月 31 日）	技術協力	民間セクター開発	カンボジア
ラオス日本人材開発センター(2)ビジネス分野活動等支援（第 1 年次）（H20 年 12 月～H21 年 9 月）	技術協力	民間セクター開発	ラオス
天然ゴム産業の振興と金融機能に係る提案型調査（H19 年度）	円借款	民間セクター開発	カンボジア

貴州省における人材育成プログラム開発に係る提案型調査	円借款	人材育成	中国
東ティモール大学工学部能力向上プロジェクトへの協力	技術協力	人材育成	東ティモール

③専門家派遣

プロジェクト	形態	派遣期間	対象国・地域
個別専門家（初中等教育計画）	長期	2005年1月～2007年1月	フィリピン
理数科教員養成（生物教育）	短期	2005年8月～9月	ラオス
経済法（企業関連法）整備支援終了時評価調査	短期	2007年11月～12月	中国
法制度整備支援基礎情報収集・確認調査	短期	2009年1月～2月	カラオス
民間セクター振興プログラム	短期	2008年3月	カンボジア
持続可能な地域観光振興	短期	2008年4月～5月	ドミニカ
平成18年度　円借款事業事後評価業務	短期		中国
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2010年10月 2011年3月	東ティモール

タンザニア国灌漑農業技術普及支援体制強化計画運営指導調査	短期	2011年2月	タンザニア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2011年11月 2012年3月	
マレーシア日本国際工科院技術経営学部のカリキュラム設定、教員募集についての協議に係る調査	短期	2012年1月	

④研修員受入

コース名	形態	受入期間	国・地域名
花キ園芸	個別	1996年3月～12月	ケニア
地震観測システム	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
地震解析	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
環境工学	個別	1997年3月～7	インドネシア
地震観測システム	個別	1998年3月～5月	トルコ
獣医学（小型動物内視鏡）	日系個別	1998年4月～1999年4月	ブラジル
消化器内視鏡	個別	1999年1月～2月	アルゼンチン
節水灌漑	個別	1999年3月～6月	中国
看護学	日系個別	1999年4月～200年3月	ブラジル
カロチン抽出分離	個別	1999年8月～10月	マレーシア/2、名
土地水質源管理学	プロジェクト	形態	分野

土地資源管理	長期研修	2001 年 9 月	ベトナム
繁殖ホルモン測定技術の応用	個別	2004 年 8 月～9 月	ベトナム
現職教員研修	集団	2005 年 10 月～11 月	フィリピン
高品質肉牛の管理と繁殖	日系個別	2009 年 5 月～2010 年 2 月	ブラジル
稲研究人材育成	長期研修	2009 年 9 月～2011 年 8 月	タンザニア
参加型農村開発	短期	2009 年 10 月	バングラデシュ/2 名
高品質勝久野効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的なビジョン	日系個別	2011 年 5 月～2012 年 2 月	ボリビア

⑤ JICA 協力授業

・国際協力論　　JICA の歩みと役割他（各年 3～5 コマ）経済学部

・国際協力概論　開発途上国の現状と課題、有償資金協力の仕組みと課題、有償資金協力の事例紹介（各年 2 コマ）工学部

⑥JICA 後援イベント

山口大学国際シンポジウム　2011 年 7 月

(6) 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、十分なデータの収集、研究データの交換による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり、毎年多くの教員、研究者が海外に派遣され、また山口大学でも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。国際研究・教育ネットワークを通して、共同研究、シンポジウムの開催、授業の相互提供といった活動が行われている。

2011 年度には研修目的の 36 人を含め、延べ 825 人の教員が海外に派遣され、合計 78 人の海外からの研究者を受け入れた。

(7) 職員の研修

①山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学教育研究後援財団の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を 1 週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、外国語能力の向上に努めている。

・2005 年度：2 名（米国・ハワイ大学、英国・シェフィールド大学）
・2006 年度：2 名（カナダ・リジャイナ大学、ドイツ・エアランゲン大学）
・2007 年度：2 名（米国・オクラホマ大学、豪州・ニューカッスル大学）
・2008 年度：2 名（中国・山東大学及び香港中文大学）
・2009 年度：2 名（中国・山東大学）
・2010 年度：4 名（中国・山東大学、台湾・大葉大学外、インドネシア・ウダヤナ大学）
・2011 年度：3 名（中国・山東大学、インドネシア・ガジャマダ大学）

②山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活、教育、研究の支援を担当、または部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指して、ネイティブスピーカー講師による英語能力向上のための会話訓練を行い、外国人対応の業務遂行に必要とされるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした英語能力向上研修を、2010 年度から実施している。2011 年度は 24 名が本研修に参加した。

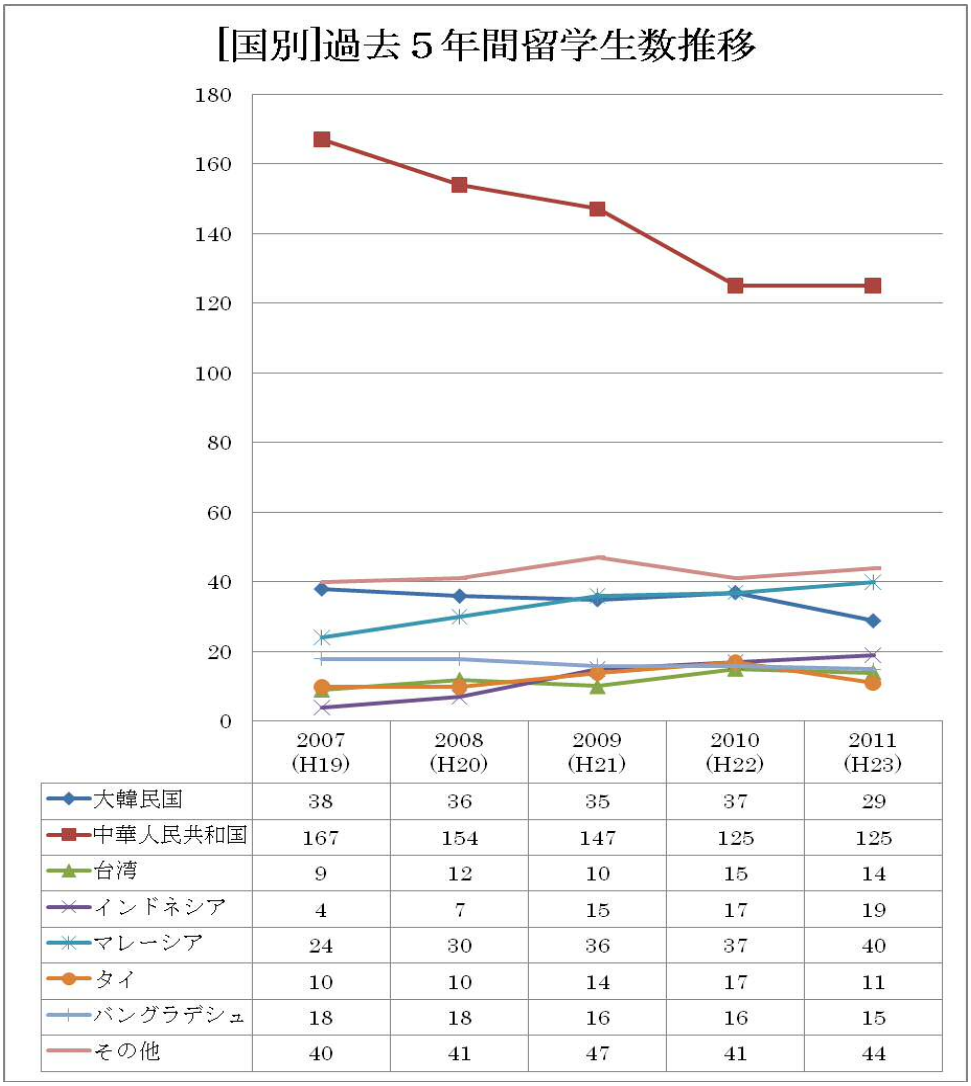
(8) 学内の国際化推進体制の整備

国際化を推進するため、諸手続（外国人留学生・研究者の渡日後の各種生活支援）のワンストップサービスを提供する「外国人留学生・外国人研究者サポートオフィス」を、吉田地区において 2010 年 12 月から試行した。2011 年 6 月からは、アドバイザー2 名（吉田地区 1 名、宇部地区 1 名）を配置し、サポートオフィスを本格稼働し、外国人留学生・研究者の渡日・入学、入学後の各種支援体制を構築した。

(9) 留学生の促進策

留学生への経済的支援を図るため、山口大学教育研究後援財団の支援を受けて外国人留学生奨学事業の創設を行った。

（参考）出身国・地域別留学生数の推移



	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)
大韓民国	38	36	35	37	29
中華人民共和国	167	154	147	125	125
台湾	9	12	10	15	14
インドネシア	4	7	15	17	19
マレーシア	24	30	36	37	40
タイ	10	10	14	17	11
バングラデシュ	18	18	16	16	15
その他	40	41	47	41	44

（参考）学術交流協定に基づく交換留学生数

学術交流協定に基づく交換留学生（2012.3.31現在）

エリア区分	国・地域	協定校	協定分類	協定で定める交換留学生数の		交換留学に係る特記事項	交換留学生 H19 派遣	H19 受入	H20 派遣	H20 受入	H21 派遣	H21 受入	H22 派遣	H22 受入	H23 派遣	H23 受入	合計
アジア	インドネシア	ウダナヤ大学	大学間	3		ウダヤナ大学ー理工学研究科間		1									1
	韓国	仁荷大学校	大学間	15				13	2	12	1	15		14	1	9	67
		ソウル市立大学校	大学間	3													0
		亜州大学校	大学間	5												1	1
		梨花女子大学校	大学間	5											1		1
		公州大学校	大学間	5			1	2		2		2		2	1	2	12
		韓国外国語大学校	大学間	5				3		3		4		4	1	3	18
		群山大学校	大学間	5				4		4		2		1			11
		慶尚大学校	大学間	5												2	2
		昌原大学校	大学間	8	*									3		4	7
		ソウル大学校	大学間	3													0
		釜山大学校　師範学部	教育学部	3													0
	タイ	シーナカリンウィロート大学	大学間	5								5		5		4	14
		コンケン大学	大学間	5								3		5		4	12
		カセサート大学	大学間	5						1							1
		チェンマイ大学	大学間	5													0
		ソンクラ王子大学	大学間	2													0
		キングモンクット工科大学トンブリ生物資源工学部	農学部	2						1		1		1		1	4
		メージョー大学　農学生産学部	農学部	2													0
	中国	山東大学	大学間	8				3	2	4	2	4		4		3	22
		北京師範大学	大学間	5			1	2	2	2	2	1		1		1	12
		武漢理工大学	大学間	5				5		5		5		5		4	24
		貴州大学	大学間	4						4		4		4		3	15
		重慶理工大学	大学間	5		重慶理工大学ー学部ー山口大学工学部間											0
		首都師範大学	大学間	5													0
		復旦大学　情報科学工程学院	教育学部	2													0
		中国人民大学経済学院	経済学部	4													0
		西華大学　関連工科系学院	工学部	3						1		2				1	4
	台湾	国立中興大学	大学間	3			1	4	1	2	1	1		1	2	2	15
		静宜大学	大学間	5								2		2		4	8
		東海大学	大学間	5								2		2		3	7
		逢甲大学	大学間	5												3	3
		大葉大学	大学間	5								3		4			7
		国立台湾大学　医学院	医学部	10													0
	ベトナム	ハノイ理工科大学　応用数学・情報科学部	理学部	5											1		1
ヨーロッパ	ウクライナ	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学	教育学部	2						1						1	2
	イギリス	シェフィールド大学	大学間	2		シェフィールド大学ー山口大学教育学部											0
		UCL	大学間	1		UCLー工学部ー山口大学工学部	1				1				2		4
		セントラル・ランカシャー大学	教育・工学部	6	**				2	3	4	2		2	3	4	20
	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルグ大学	大学間	4			2	1	4	1	4	1	6	1	4	1	25
北米	アメリカ合衆国	オクラホマ大学	大学間	10	***		5	5	6	2	4	1	4	1	4	4	36
	カナダ	リジャイナ大学	医学部	3						1				1			2
	ブラジル	パウリスタ総合大学	理学部	2													0
オセアニア	オーストラリア	ニューカッスル大学	大学間	3		ニューカッスル大学工学部ー山口大学工学部	1			1							2
		キャンベラ大学	教育学部	2										1			1
合　計				205			12	43	19	50	19	60	10	64	20	64	361

＊うち3名は山口大学(工)→昌原大学海洋プラント人材開発センター(HOPE)の交換留学生数
** セントラル・ランカシャー大学内訳:　教育学部(3)+工学部(3)=6
*** オクラホマ大学内訳: 工学部(3)＋人文学部(2)+医学部(5)+経済学部(2)+教育学部(2)=14
→オクラホマ大学は23年度の更新で全学の附属書へ変更となった。（全学部で10名）

第 2 章　2011 年度の留学生部門の活動

1. 留学生アドバイザー、アドバイザーアシスタントの配置

近年、多様な学生支援の重要性が認識されていますが、言語、習慣、文化など、日本人学生とは違った支援や配慮が必要となる留学生に対して、より多面的・複合的な支援が求められることから、2011年4月から共通教育棟2階の学生ラウンジに留学生アドバイザー及びアドバイザーアシスタントが配置されました。

留学生アドバイザーの主な活動として、在留資格認定証明書交付などのビザの手続き、空港への出迎え（4月、10月のみ）、外国人登録、国民健康保険加入、銀行口座の開設、学内手続きのように渡日直後のサポートや、携帯電話の契約、大学近郊の施設（公共機関、銀行、スーパー）の道案内、レポートの日本語の添削等、幅広い支援活動を行っています。

また、アドバイザーアシスタントは山口大学の学生を採用しているので、学生目線で大学生活を行っていく上での助言や生活相談に応じることができ、留学生からも好評を得ています。

今後も留学生が日本の生活や大学生活に円滑に順応できるように支援していくとともに本学の日本人学生と留学生双方が集まり、交流を深めていける場を提供できるように活動していければと思います。

2. 「外国人留学生懇談会」の開催

2011 年 11 月 25 日（金）、本学に在籍する外国人留学生と外国人研究者を激励し、交流を促進するため、学長主催による「外国人留学生懇談会」を開催しました。留学生の増加に伴い、今年も約300人が参加しました。

この「外国人留学生懇談会」は第 1 部と第 2 部の 2 部構成となっており、第 1 部では、5 カ国の学生がそれぞれの母国や日本文化との違いについて、国際色に富んだ聴衆に配慮して日本語と英語により紹介を行いました。様々な国の新しい一面を知ることが出来る貴重な時間でした。

第 2 部は、第 2 学生食堂・きららに会場を移し、外国人留学生・研究者・その家族が参加し、日本人学生・教職員、平川地域の方々との交流が行われ、大いに盛り上がりました。

会場では、民族衣装を着たバングラデシュやインドネシアの留学生による歌の披露、日本人学生による邦楽の演奏やよさこい踊りがあり、参加者の注目を集めていました。

3.「外国人留学生見学旅行」の開催

2011 年 12 月 17 日（土）～18 日（日）にかけて、外国人留学生が見学旅行で大分県（湯布院、別府等）に行き、外国人留学生 128 人、引率者 6 人の全部で 134 人が参加しました。この旅行は、外国人留学生が日本の文化や歴史を体験から学ぶ事を目的として毎年行っているものです。

初日は、湯布院散策や別府地獄巡りをし、日本の文化や自然を満喫しました。また、ほとんどの外国人留学生にとって旅館での宿泊が初体験であったため、温泉や浴衣など日本文化を体験できる絶好の機会となりました。そして夕食時には、伝統的な湯布院神楽が披露され、多くの外国人留学生が箸を止めて写真撮影をするなど、大いに盛り上がりました。

2 日目は、杵築市、豊後高田昭和の町、および宇佐神宮を訪問し、城下町及び昭和の街並みの見学や抹茶体験をしました。 1 泊 2 日という過密なスケジュールでしたが、外国人留学生たちは充分に楽しみながら、日本の文化と歴史を実体験していました。また、外国人留学生同士の交流を深めることもできた貴重な 2 日間となりました。

4.各学部からのニュース

(1)宇部高校 SC（スーパーキャリア）講座に工学部留学生が講師として参加協力（工学部）

2011 年 9 月 12 日（月）に宇部高等学校で開催された SC（スーパーキャリア）講座に、工学部留学生のナグイェンさん（ベトナム）、ティンさん（ミャンマー）、コイロンさん（インドネシア）、ハムディさん（マレーシア）、センクンバさん（ウガンダ）の 5 名が講師として参加しました。講座では、パワーポイントを使って自己紹介、自国の文化、大学での研究等を英語で紹介し、その後、グループに分かれ、宇部高校の生徒やコミュニケーション・サポーターの梅光学院大学の学生と共に自由に質問や意見を交わしながら、コミュニケーショ力の向上を図るというものです。宇部高校の生徒だけでなく、留学生にとっても大変良い経験となりました。

第 3 章　2011 年度の学術研究部門の国際交流活動

1. 独立行政法人日本学術振興会助成

(1)アジア研究教育拠点事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、日本とアジア諸国の研究拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、世界的水準の研究教育拠点の構築と若手研究者の養成を目的とした事業。

【研究課題】微生物の潜在能力開発と次世代発酵技術の構築

【研究期間】2008 年度～2012 年度

【山口大学中心実施部局】大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】山田守（大学院医学系研究科（農学)、教授）

【相手方機関名（国・地域名)】コンケン大学［(タイ側）拠点機関]、ブラパ大学、チェンマイ大学、チュラロンコン大学、カセサート大学、モンクット王工科大学トンブリ校、モンクット王技術大学ラドクラバング校、メイジョ大学、マヒドン大学、ナレスアン大学、ソンクラ王子大学、シーナカリンウィロット大学、タマサート大学、ウボンラチャタニ大学、遺伝子工学・バイオテック国立研究所、タイ科学技術研究所、バイオテックカルチャーコレクション、農業研究開発機構（以上全てタイ）

【事業概要】

タイ NRCT からマッチングファンドを得て、日本、タイ、ベトナム、ラオスの 4 カ国によるアジア研究教育拠点事業を実施する。先導の JSPS-NRCT 拠点事業（平成 10～19 年度）の実績に基づいて、本事業はタイ隣国を加えて広域に展開し、先端的分野を創成させるために実績・評価の高い耐熱性微生物発酵分野に特化して遂行する。日本とタイから多数の大学、ベトナム南部の主要な 4 大学及び 1 研究所、ラオス唯一の国立大学等の研究者が参加し、若手研究者の実践的教育を含め発酵分野における世界的水準の交流拠点を目指す。そのために積極的な共同研究や研究者交流に加え、セミナーやシンポジウム等を頻繁に開催する。

【得られた成果】

2011 年度の研究協力体制として、本事業に日本の 23 研究機関 65 人、タイの 21 研究機関 77 人、ベトナムの 5 研究機関 12 人、ラオスの 1 研究機関 8 人が参加し、43 件の共同研究を実施した（日本とタイとの共同研究：34 件、日本とベトナムとの共同研究：1 件、日本・タイ・ベトナム・ラオスの 4 カ国による共同研究：8 件)。

日本、タイ、ラオス、ベトナムとの共同研究促進を目的として、第 4 回サテライトセミナーをビエンチャン市内で開催した。また、本事業の広報並びに本事業関係者の研究成果発表あるいは交流や情報交換を目的として、第 4 回有用物質生産のための発酵技術に関する国際会議並びに Thailand Research EXPO 2011 に参加し、それぞれ分科会としてセミナーを開催した。さらに、若手研究者養成のための事業として、第 4 回若手研究者セミナーを、カセサート大学の支援を受けてタイで開催した。

(2) 若手研究者招聘事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジアを中心とした国々の大学院生（博士課程、修士課程）やポスドク等の若手研究者を日本の大学等学術研究機関において受け入れ、研究に従事する機会を提供する事業。

【研究課題】東南アジア若手研究者との熱帯性環境微生物資源の継続的な共同開発研究

【研究期間】2011 年 7 月 1 日～2011 年 12 月 31 日

【山口大学実施部局】大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】山田守（大学院医学系研究科（農学）、教授）他 7 名

【交流相手機関（国・地域名）】チェンマイ大学理学研究科、チュラロンコン大学理学研究科、カセサート大学理学研究科・獣医学部、コンケン大学工学研究科・生物工学研究科、ソンクラ王子大学農工学部・理学部、ウボンラチャタニ大学理学部、ラジャマンガラ大学理学部・農工学部（以上全てタイ）、カントー大学生命工学研究開発センター（ベトナム）、ラオス国立大学理学部（ラオス）、ブラビジャヤ大学農学部（インドネシア）、ダバオオリエンタル州立科学技術大学沿海総合自然資源保全センター（フィリピン）

【事業概要】

・若手教員の受け入れ……2011 年度は、本事業によりタイ等より 21 名の若手研究者を受け入れ、本学を含む 5 機関 12 名の各受け入れ研究者のもとでそれぞれ異なる研究に従事した。なお、本学では、8 名の教員が 17 名の若手研究者を受け入れた。

・若手研究者セミナーへの参加……2008 年度から国内や東アジアの若手研究者育成の一環として、JSPS アジア研究教育拠点事業による若手研究者セミナーを毎年開催している。本セミナーには、タイ、ベトナム、ラオスからの若手研究者、山口大学の留学生そして日本人博士・修士学生を含む多数の若手研究者が参加している。今回の第 4 回若手研究者セミナーは、第 1 回現地セミナーを兼ねて、2011 年 9 月 26-27 日にカセサート大学（タイ）で実施した。第 4 回若手研究者セミナーには、本事業から 4 名の研究者と、日本から 26 名の博士課程学生及び修士課程学生が参加し、交流を行った。

・現地でのセミナーの開催……2011 年度は以下のようにセミナーを開催し、本事業参加者による研究発表および事業代表者による本事業の紹介を行った。

第 2 回現地セミナー

開催日時：2011 年 9 月 24 日

開催地：ブラビジャヤ大学（スラバヤ、インドネシア）

若手研究者：1 名；その他の研究者：12 名

第 3 回現地セミナー

開催日時：2011 年 12 月 9 日

開催地：カントー大学（ホーチミン、ベトナム）

若手研究者：1 名；その他の研究者：7 名

第 4 回現地セミナー

開催日時：2011 年 12 月 19 日～20 日

開催地：ダバオオリエンタル州立科学技術大学（ダバオオリエンタル、フィリピン）
若手研究者：1 名；その他の研究者：11 名
第 5 回現地セミナー
開催日時：2011 年 12 月 21 日
開催地：ラオス国立大学（ビエンチャン、ラオス）
若手研究者：2 名；その他の研究者：15 名
第 6 回現地セミナー
開催日時：2011 年 12 月 22 日
開催地：コンケン大学（コンケン、タイ）
若手研究者：3 名；その他の研究者：11 名

・日本からの研究者派遣

2011 年 9 月 22 日から 28 日まで、山田教授が現地セミナー実施、研究進展の把握、研究環境の視察のためにブラビジャヤ大学農学部（インドネシア）、カセサート大学理学研究科（タイ）を訪問した。

2011 年 12 月 8 日から 11 日まで、山田教授が現地セミナー実施、研究進展の把握、研究環境の視察のためにカントー大学生命工学研究開発センター（ベトナム）を訪問した。

2011 年 12 月 17 日から 21 日まで、佐藤教授が現地セミナー実施、研究進展の把握、研究環境の視察のためにダバオオリエンタル州立科学技術大学沿海総合自然資源保全センター（フィリピン）を訪問した。

2011 年 12 月 20 日から 24 日まで、山田教授が現地セミナー実施、研究進展の把握、研究環境の視察のためにラオス国立大学理学部（ラオス）、コンケン大学工学研究科（タイ）を訪問した。

【得られた成果】

東南アジアの若手研究者の研究能力や活動の発展を支援することによって、独立行政法人日本学術振興会より助成を受けた拠点大学交流事業およびアジア研究教育拠点事業によって培われてきた人的ネットワークを維持発展させることができた。同時に、日本の大学院生や学部学生との交流機会を提供し、我が国の若手研究者の育成に寄与することができた。また、山口大学では平成 21 年度に中高温微生物研究センターを設立し、微生物学に関する国際共同事業をさらに積極的に展開し、微生物アジア拠点形成を目指しているが、本事業はその一環としても成果を残すことができた。

(3) 二国間交流事業　「インドネシア DGHE との共同研究」

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）と学術の国際協力に関する合意に基づき行う事業。個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、日本の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費の支援を行う。

【研究課題】希少野生トラの精液凍結保存法の開発
【期間】2011 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日
【山口大学実施部局】農学部
【山口大学担当教員】音井威重（教授）
【相手方機関名（国・地域名）】ボゴール農業大学（インドネシア）
【相手方参加者】Mohamad Agus Setiadi（ボゴール農業大学）、Mokhamad Fahrudin（ボゴール農業大学）、Yudi（ボゴール農業大学）、Ligaya ITA Tumbelaka（ボゴール農業大学）、Karaja Ni Wayan Kurniani（ボゴール農業大学）
【事業概要】
生息数 400 頭以下と目されるスマトラトラの人口保護のため、トラ精液の保存および野生ネコ科動物にも適応できる精液の凍結保存技術を開発する。2011 年度は、ボゴール農業大学から大学院生 3 名を招へいし、精子の受精能評価方法について技術習得を行った。さらに、日本側から山口大学大学院生（2 名）を含む 4 名がボゴール農業大学に赴き、タマンサファリ―で保護されているスマトラトラから精液の採取および凍結保存を行い、家ネコ由来の卵子と体外受精を行って、受精能を調べた。
交流の詳細は以下のとおり。

氏名・所属	期　　間 （現地到着日～現地出発日）	主たる訪問先
音井　威重・山口大学	2011 年 11 月 11 日～17 日	ボゴール農業大学
照　那木拉・山口大学	2011 年 11 月 11 日～12 月 8 日	ボゴール農業大学
谷原　史倫・山口大学	2011 年 11 月 11 日～25 日	ボゴール農業大学
菊地　和弘・（独）農業生物資源研究所	2011 年 11 月 11 日～17 日	ボゴール農業大学
Mohamad Agus Setiadi・ボゴール農業大学	2011 年 6 月 27 日～7 月 2 日	山口大学
Mokhamad Fahrudin・ボゴール農業大学	2011 年 6 月 27 日～7 月 2 日	山口大学
Yudi・ボゴール農業大学	2011 年 6 月 27 日～8 月 9 日	山口大学

【得られた成果】
異なる糖類を添加した凍結保存液でスマトラトラの精子を凍結保存し、その精子性状および受精能を検査した結果、糖類のタイプに関わらずスマトラトラ由来の凍結融解精子は家ネコ由来の体外成熟卵子と受精することが確認された。

(4) 外国人特別研究員

独立行政法人日本学術振興会が実施する、諸外国の若手研究者に対し、日本の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。

個々の外国人特別研究員の研究の進展を援助するとともに日本及び諸外国における学術の進展に資することを目的とする。

①【研究課題】チタノシリケートおよびカルシウムリン酸塩マイクロポーラス・ナノ結晶の構造評価

【期間】2010 年 11 月 28 日～2012 年 11 月 27 日

【山口大学実施部局】大学院理工学研究科（工学）

【山口大学担当教員】中山則昭（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】ブルガリア科学アカデミー鉱物学・結晶学中央研究所（ブルガリア共和国）

【相手方参加者】TITORENKOVA, Rositsa Hristova（研究員）

【事業概要】

山口大学理工学研究科では、ヒートポンプ用マイクロポーラス物質の研究を 10 年来続けており、他方ブルガリア科学アカデミーでは、チタノシリケートやカルシウムリン酸塩などの新しいマイクロポーラス物質の研究を行っており、約 10 年間研究交流を行ってきた。この度、TITORENKOVA, Rositsa Hristova 研究員を受け入れて、TEM 法、IR-Raman 分光法などによる共同研究を推進することにより、ヒートポンプ用マイクロポーラス物質に関する新しい知見を得る事を目指した。

【得られた成果】

マイクロポーラス構造をもつ GTS 型チタノシリケートの赤外・ラマン分光法による研究に重点を置いた結果、特に赤外吸収スペクトルによる研究が順調に進展し、細孔内の水分子の状態について新しい知見が得られた。また、Co および Sr イオン交換体の研究も当初計画どおり進展した。Mg および Zn 添加リン酸カルシウムについては、当初計画の、粒形および粒子サイズの評価、Mg および Zn の組成分布の評価、格子像観察による微細結晶構造の評価が進展した。

②【研究課題】トマト誘導全身抵抗性におけるエリシターと信号伝達経路の同定

【期間】2011 年 7 月 23 日～2013 年 7 月 22 日

【山口大学実施部局】農学部

【山口大学担当教員】伊藤真一（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】マイソール大学（インド）

【相手方参加者】JOGAIAH Sudisha（研究員）

【事業概要】

トマト根腐萎ちょう病および青枯病抵抗性を指標にして、植物生長促進菌類（PGPF）によるトマトの誘導全身抵抗性（ISR）の誘導機構について分子レベルでの解明を目指す。

【得られた成果】

これまでに分離した PGPF のリボソーム RNA 遺伝子 ITS 領域の塩基配列を決定し、配列を NCBI データベースに寄託した。また、供試した PGPF（27 菌株）のうち、16 菌株がト

マト根腐萎ちょう病菌および青枯病細菌に対して、拮抗作用を示すことを明らかにした。さらに、拮抗作用を示した PGPF（16 菌株）の中から、ISR を誘導する PGPF（4 菌株）を選抜した。

(5) 外国人招へい研究者（長期）

独立行政法人日本学術振興会が実施する、学術の国際協力を推進するため、外国人研究者を日本に招へいする事業。中堅から教授級の外国人研究者を比較的長期間招へいし、日本の研究者と協力して研究を行う機会を提供することを目的とする。

【研究課題】微分信号の再構成：理論とその応用

【期間】2012 年 3 月 13 日～2012 年 6 月 8 日

【山口大学実施部局】大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】平林晃（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】フランス国立科学研究センター（フランス）

【相手方参加者】CONDAT Laurent（常勤研究員）

【事業概要】

微分信号を現信号の標本値から直接、再構成する理論を開発し、さらにその結果を 3 次元可視化や制御理論に適用していくことを目的とする。CONDAT Laurent 研究員を招へいし、微分信号の再構成について議論することにより、国内の同分野における研究の活性化が期待できる。

【得られた成果】

CONDAT Laurent 研究員を招へいし、原信号の測定データから微分信号を直接再構成する問題について共同研究を実施することにより、従来法と同じ計算量でより高精度な再構成を実現する手法を開発した。また、招へい期間中に信号再構成理論についての講演を 2 回行い、日本国内の同分野における研究の活性化を促すことができた。

(6) 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】モンゴル在来牛の卵母細胞の発育とマイコトキシン汚染との関連性に関する研究

【期間】2009 年度～2012 年度

【山口大学実施部局】農学部

【山口大学担当教員】音井威重（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】畜産研究所畜産部（モンゴル）

【相手方参加者】SAMBUU, Rentsenkhand (主任研究員)
【事業概要】
2004 年 9 月から 2005 年 2 月まで SAMBUU 氏を日本に招へいし「受精卵のガラス化凍結保存に関する研究」について共同研究を行ったことを契機に、継続して「体外受精技術を活用したモンゴル在来牛の改良に関する研究」を共同で実施している。SAMBUU 氏はモンゴル国内でも多数の研究成果を蓄積しており、今後の研究を指導することにより SAMBUU 氏の博士号学位取得に向けた支援を行う。
【得られた成果】
事業最終年度（2012 年度）の論文完成に向けて、2011 年度も SAMBUU 氏を山口大学に 90 日間（平成 23 年 10 月 11 日～平成 24 年 1 月 7 日）受入れ、また、音井教授が 10 日間モンゴルを訪問し、研究指導を行った。

2. 文部科学省助成

科学技術振興調整費「国際共同研究の推進」

文部科学省が運用を行う、総合科学技術会議の方針に沿って科学技術の振興に必要な重要事項の総合推進調整を行うための経費で、政府誘導型の競争的資金として活用される補助金。

「国際共同研究の推進」プロジェクトは、科学技術外交の強化の一環として、我が国の高い研究ポテンシャルを活用しつつ互恵的な国際共同研究をアジア・アフリカ諸国等と実施することを通じて、我が国のリーダーシップを発揮した国際的な科学技術コミュニティを構築するとともに、我が国とアジア・アフリカ諸国等の政府レベルでの協力関係の強化・構築を目指す事業。
【研究課題】熱帯性環境微生物による省エネ高温発酵技術
【研究期間】2010 年度～2012 年度
【山口大学実施部局】農学部、農学部附属中高温微生物研究センター他
【山口大学担当教員】山田守（大学院医学系研究科（農学）、教授）他 3 名
【相手方機関名（国・地域名）】カセサート大学、コンケン大学、ソンクラ王子大学、タイ科学技術研究所（TISTR）、農業研究開発局（ARDA）国家研究評議会（NRCT）（以上全てタイ）
【事業概要】
－バイオエタノール、酢酸およびバイオガスの高温発酵実証試験のための基礎研究－
本事業は、タイ国との十数年に及ぶ国際拠点事業から獲得した耐熱性微生物を活用し、タイとの共同研究によって次世代の高温発酵技術を実用化のための実証試験レベルまでに開発することを目的とする。日本側（山口大学、九州大学）の分担は高温発酵技術の基礎研究と、タイの豊富なバイオマスを用いてタイで実施される予備試験や実証試験のための

支援基礎研究である。

そのうち山口大学では、代替燃料としてのバイオエタノールやバイオガスおよび工業原料としての酢酸について、高温発酵研究を実施する。なお、実証試験に必要な予備試験研究はタイの大学が分担し、実証試験研究はタイ科学技術研究所（TISTR）が分担する。

【得られた成果】

タイで実施する高温発酵試験に必要な菌の開発や反応条件および新たな技術についてはこれまでに研究成果をあげており、2011 年度においても、年度当初の計画に沿って着実に本事業を達成した。

3. 山口大学／財団法人山口大学教育研究後援財団助成

(1)中国短期派遣研究者プログラム

中国国内の大学に山口大学の研究者を短期間派遣することにより、中国内の大学との学術交流の促進、山口大学の学術交流の発展を図ることを目的とした事業。

①【研究課題】（中国）清末民初の行政法学と日本法

【期間】2011 年 8 月 31 日～9 月 11 日

【山口大学実施部局】経済学部

【山口大学担当教員】石龍潭（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】中国人民大学（中国）、中央財経大学（中国）、清華大学（中国）、国家図書館（中国）、社科院法学所図書資料室（中国）、北京市図書館（中国）

【事業概要と得られた成果】

中国人民大学、中央財経大学、国家図書館、社科院法学所図書資料室等を訪問し、清末民初の行政法学と日本法に関する調査および資料収集を行い、中国行政法の生成と発展の過程における日本法の果たした役割を明らかにするための成果をあげた。

②【研究課題】広西山歌による民衆啓蒙活動の研究

【期間】2011 年 9 月 18 日～27 日

【山口大学実施部局】大学院東アジア研究科

【山口大学担当教員】阿部泰記（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】桂林図書館（中国）、広西大学（中国）、上海図書館（中国）

【事業概要と得られた成果】

武漢理工大学の協力を得て、桂林図書館、上海図書館等において、山歌による民衆活動啓蒙に関する資料収集を行ったほか、広西大学において日中比較文化研究についての講演を行った。今回は、山歌の現地調査を行うことができなかったが、基礎調査を行ったことにより、山歌による民衆啓蒙の調査は、宜州が最適な場所であることを突き止め、次回の実施調査に向けての収穫を得ることができた。

③【研究課題】渡日前日本語学習支援サイト用日本語学習教材（中国語話者向け）共同研究

【期間】2011 年 11 月 22 日～28 日

【山口大学実施部局】大学教育機構　留学生センター

【山口大学担当教員】赤木彌生（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】北京師範大学（中国）

【相手方参加者】林洪（外国語学院日本語学科書記長・日本語教育教学研究所所長）、冷麗敏（外国語学院日本語学科主任・准教授・日本語教育教学研究所副所長）

【事業概要と得られた成果】

北京師範大学の協力を得て、今年度作成した「やまぐち日本語学習支援サイト」試作版の運用実験を行った。さらに、今回の派遣期間中に開催された北京師範大学日本語教育教学研究所主催の日本語教育シンポジウムに出席し、同サイトの紹介や日本語教材についての意見交換を行い、中国の日本語教育機関との繋がりを築くなどの成果をあげた。

④【研究課題】中国独自の公的日本語試験の実態調査に基づく適性試験型日本語論述試験の内容的精緻化

【期間】2011 年 11 月 25 日～28 日

【山口大学実施部局】大学教育機構　アドミッションセンター

【山口大学担当教員】大澤公一（講師）

【相手方機関名（国・地域名）】北京師範大学（中国）

【事業概要と得られた成果】

北京師範大学日本語教育教学研究所主催の日本語教育シンポジウムに出席し、基調講演『テストの科学と大規模公的日本語試験に果たす役割』を行った。中国国内における公的日本語試験の現状について調査を行い、現在研究を進めている新しい日本語論述試験の項目内容の精緻化に資する情報を収集した。また、北京師範大学、北京外国語大学、上海外国語大学等の研究者と意見交換を行い、今後の共同研究を進める上でのネットワーク作りに成果をあげた。

(2) 研究者招へい事業

中国内の学術交流協定校に勤務する研究者を短期間招へいすることにより、共同研究に関する協議等を通じて、中国内の学術交流協定校との交流活動の促進、学術研究の充実を図ることを目的とした事業。

①【研究課題】病診連携における遠隔センシング技術と解析技術に関する研究

【期日】2011 年 11 月 22 日～12 月 3 日

【山口大学実施部局】大学院理工学研究科（工学）

【山口大学担当教員】江鐘偉（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】武漢理工大学（中国）

【相手方参加者】陳徳軍（情報工学学院・教授）
【事業概要と得られた成果】
武漢理工大学陳徳軍教授を招へいし、ネットワークによる遠隔センシング技術や遠隔生体データの採集・解析に関わるシステム構築等についての議論を行い、今後の役割分担や研究計画についての打合せを行ったほか、滞在中に開催されたデジタルマニュファクチャリングのための国際会議に出席し、IT 技術を用いたモノづくりに関する資料収集を行った。今回の招へいにより、役割分担や研究室の連携体制、今後の研究計画の具体化を行うことができた。さらに、創成工学デザインやモノづくりに関する国際的に協働する教育プラットフォームに関するコンセプト、教材開発等についての合意を得ることができた。

②【研究課題】日本江戸時代の易学について－現代教育へのヒントを求めて－
【期日】2012 年 1 月 25 日～2 月 5 日
【山口大学実施部局】大学教育機構　大学教育センター
【山口大学担当教員】何暁毅（教授）
【相手方機関名（国・地域名）】山東大学（中国）
【相手方参加者】井海明（高等教育研究センター・教授）
【事業概要と得られた成果】
招へいした山東大学井海明教授は、日本の江戸時代における「易学」及び日本における「易学」の受容などについて、図書館や経済学部東亜経済資料室において資料収集を行ったほか、人文学部教員などとの意見交換を行うことにより研究に成果を上げたほか、本学との交流を深めることにも成果をあげた。

③【研究課題】渡日前日本語学習支援サイト用日本語学習教材（中国語話者向け）共同研究
【期日】2012 年 2 月 5 日～9 日
【山口大学実施部局】大学教育機構　留学生センター
【山口大学担当教員】赤木彌生（准教授）
【相手方機関名（国・地域名）】北京師範大学（中国）
【相手方参加者】冷麗敏（外国語学院日本語学科主任・准教授・日本語教育教学研究所副所長）
【事業概要と得られた成果】
北京師範大学冷麗敏准教授を招へいし、中国語話者向けマルチメディア教材の効果的な素材等についての協議を行った。また、中国国内での Web 発信方法の検討を行い、今後、日中共同製作で中国国内における配信方法について協議を行うことの布石となった。

第 4 章　2011 年度の各学部・研究科等の活動

1. 人文学部　纐纈　厚　教授
「東アジア地域の共生と歴史和解」　【中国】

Project Title プロジェクト名	東北アジア地域の共生と歴史和解
YU Department 部局	人文学部
Date 期日	2011 年 10 月～
University or Institution Abroad 相手大学・施設	西安交通大学（中国）
YU Participants 山大側参加者	人文学部人文社会学科：纐纈厚教授
Counterparts 相手国側参加者	李建群（西安交通大学東北アジア文化センター副センター長），顧令儀（同大学専任講師，同センター研究員）ほか
Travel Cost 旅費	西安交通大学東北アジア文化センター負担
Current Results 当面の成果	2011 年 10 月，中国国家プロジェクトの一環として，中国における国家重点大学である西安交通大学内に設置された東北アジア文化研究センターにおいて，纐纈は副主任への就任を要請されている。そこでは東北アジア地域における歴史と文化の研究を継続的に行うことで東北アジア地域の共生と歴史和解への方法論について中国政府だけでなく，日本政府にも多様な形態と採りながら問題提起をしていく。
Possibility of Future Development 今後の発展性	１）中国における国家重点大学において開設された同文化センターの運営と研究成果を山口大学にも還元できることを期待している。 ２）纐纈は，11 月に同文化センターにおいて，「東北アジア平和共同体への方途～日中歴史問題の現状と歴史和解～」（仮題）と題する招待講演を行う予定で準備を進めている。講演録は同センター創刊予定の機関誌に掲載される予定。
Contents 内容	山口大学と中国の諸大学との提携関係が順調に進められている一方で，具体的かつ継続的な展望と方針を持った交流関係の構築は依然として手薄に思われる。そうした課題を克服する一助になればと考えている。同時に同センター研究員で同大学専任教員を一年間，山口大学に招聘する計画であるが，山口大学からも派遣者を検討して頂きたい。研究者の長期的展望を持ったうえで，相互訪問を継続事業として位置づけられることを望みたい。
Inquiries 問合せ先	人文学部人文社会学科歴史学講座　纐纈 厚（教授） TEL: 083-933-5278　E-mail: a.koketu@yamaguchi-u.ac.jp

2. 人文学部　纐纈　厚　教授

「『偽満州国』残存建築群の調査研究」　【中国，台湾】

Project Title プロジェクト名	「偽満州国」残存建築群の調査研究
YU Department 部局	人文学部
Date 期日	2009 年 9 月～2012 年 8 月（3 年計画）
University or Institution Abroad 相手大学・施設	旅順博物館（中国），台北教育大学（台湾），吉林大学（中国）
YU Participants 山大側参加者	人文学部人文社会学科：纐纈厚教授
Counterparts 相手国側参加者	郭富純（中国旅順博物館長），楊孟哲（台北教育大学副教授）
Travel Cost 旅費	自費
Current Results 当面の成果	2009 年 8 月及び 2011 年 8 月に「偽満州国」残存群を延べ 30 か所について訪問調査撮影を実施。
Possibility of Future Development 今後の発展性	1）纐纈の科研費（基盤研究Ｃ）のテーマ「植民地支配官僚の研究」と絡めながら，現在長春（「偽満州国」時代の首都・新京）に残存する建築群及びそれに関連する史料の収集調査を重ねながら，具体的な建造物を通して当該期の歴史状況や残存の経緯について調査すること。 2）現在，中国では「偽満州国」研究がようやく活況を呈し始めており，中国側も日本における研究蓄積への関心が強まっている。また，研究交流の要請も強い。これに応えていく意味でも本企画は有意義と思われる。
Contents 内容	残存する建築群を歴史的かつ政治的なアプローチから再検証する作業は中国においては緒に就いたばかりである。膨大な数の当時の写真が旅順博物館に現存するが，それらの写真も第一級の史料であり，近い将来写真と論文を同時に用いた出版物の刊行を予定している。
Inquiries 問合せ先	人文学部人文社会学科歴史学講座　纐纈 厚（教授） TEL: 083-933-5278　E-mail: a.koketu@yamaguchi-u.ac.jp

3. 人文学部　纐纈　厚　教授

「日中戦争の共同研究」　【中国】

Project Title プロジェクト名	日中戦争の共同研究（纐纈の分担は「日中戦争と日本の戦争指導体制」）
YU Department 部局	人文学部
Date 期日	2010 年 1 月～2012 年 12 月（3 年計画）
University or Institution Abroad 相手大学・施設	北京大学（中国），東北師範大学（中国），新潟大学，明治大学ほか
YU Participants 山大側参加者	人文学部人文社会学科：纐纈厚教授
Counterparts 相手国側参加者	徐勇（北京大学歴史教授），周（東北師範大学教授）ほか
Travel Cost 旅費	中国教育部負担
Current Results 当面の成果	2011 年 8 月，中国鳥義において中間報告会開催，2011 年 11 月 21 日から中国重慶で論文報告会開催予定（纐纈出席予定）。
Possibility of Future Development 今後の発展性	1）中国教育部が支援する国際プロジェクトして実施中。中国側は北京大学歴史系の先生方が中心となり，日本側は日本近現代史の専門家から選抜。本年中に論文集発行を前提とする論文報告会を開催し，最終的には来年 5 月に東京で最終的報告会を企画している。 2）研究報告会，論文報告会，史料精読会などを定期的に開催し，3 年間の期間を設定し，日中戦争研究の新たな段階を切り開くための先進的な企画として進行中である。
Contents 内容	従来，日中戦争研究は日中とも当事者でありながら，本格的な共同研究は不在状況と言える。今回のプロジェクトは史料収集から論文作成まで相当の時間を要しながら，相互意見・討論を重ねながら共同作業として新たな観点から日中歴史問題を正面から論じ，成果物を刊行しようとする試みとしてある。
Inquiries 問合せ先	人文学部人文社会学科歴史学講座　纐纈 厚（教授） TEL: 083-933-5278　E-mail: a.koketu@yamaguchi-u.ac.jp

4. 人文学部　纐纈　厚　教授

「東亜歴史文化学会の開催」　【中国，韓国】

Project Title プロジェクト名	東亜歴史文化学会の開催（第 2 回大会＝会場 : 中国大連市の遼寧師範大学，開催日 : 2010 年 9 月 23 日，同第 3 回大会＝会場 : 韓国ソウル市の韓国外国語大学，開催日 : 2011 年 5 月 13 日） ＊同会長は纐纈厚人文学部教授
YU Department 部局	人文学部人文社会学科
Date 期日	2010 年 9 月 23 日，2011 年 5 月 13 日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	遼寧師範大学（中国），韓国外国語大学（韓国），山口大学，高麗大学（韓国）ほか
YU Participants 山大側参加者	人文学部人文社会学科 : 纐纈厚教授
Counterparts 相手国側参加者	郭富純（中国旅順博物館館長），劉勇（遼寧師範大学教授），朴容九（韓国外国語大学校教授），李相薫（韓国外国語大学校教授）ほか
Travel Cost 旅費	自費
Current Results 当面の成果	1）日本，韓国，中国，台湾の東北アジア地域の人文社科学系研究者の横断的かつ国際的な学会組織の運営と研究情報交換の定例化 2）院生を含め若手研究者の発表機会の提供の恒常化
Possibility of Future Development 今後の発展性	1）中国や韓国など東北アジア地域の若手研究者や学部学生の多数の参加を得ており，日本・山口大学への留学を希望する学生の潜在的増加に貢献 2）機関誌『東亜歴史文化研究』の発行（これまでに 2 号発行）を日本，台湾，韓国，中国の言語で編集し，関係方面に配布し，研究交流に貢献している。
Contents 内容	創立大会を山口大学で開催した（2009.12.12，会場 : 大学会館大会議室）。北京大学教授の徐勇教授，中国人民大学の黄大慧教授，韓国外国大学校の朴容九教授らを山口大学に招聘し，参加者約 250 名を得た。来年度は台湾台中市の東海大学で開催予定である。同学会は歴史学，政治学，文学，哲学など他領域の研究分野を横断しながら，東北アジア地域が研究交流を通して平和と文化を基盤とする共生の方途を探り出すことを目標としている。

	第 2 回東亜歴史文化学会（2010.9.23 於中国大連市・遼寧師範大学）（纐纈教授：前列左から 4 番目）
	第 3 回東亜歴史文化学会（2011.5.13 於韓国ソウル市・韓国外国語大学校）（纐纈教授：前列中央）
Inquiries 問合せ先	人文学部人文社会学科歴史学講座　纐纈 厚（教授） TEL: 083-933-5278　E-mail: a.koketu@yamaguchi-u.ac.jp

5.教育学部　石井　由理　教授　他
「国際理解教育コース異文化体験実習 II タイ・カンボジア研修旅行」【タイ・カンボジア】

Project Title プロジェクト名	国際理解教育コース異文化体験実習 II タイ・カンボジア研修旅行 Intercultural Experience II: Study Tour to Thailand and Cambodia
YU Department 部局	教育学部 Faculty of Education
Date 期日	3/Sept/2011－14/Sept/2011
University or Institution Abroad 相手大学・施設	タイ：タマサート大学　Thailand: Thammasat University カンボジア：ワットボー小学校、王立プノンペン大学 Cambodia: Wat Bo Primary School, Royal University of Phnom Penh
YU Participants 山大側参加者	国際理解教育コース２，３年生１８名、教科教育コース３年生２名、石井由理教授、福田隆眞教授 2&3rd year students of the Faculty of Education, Prof. Ishii Yuri, Prof. Fukuda Takamasa
Counterparts 相手国側参加者	タイ：タマサート大学学生、ソムチャイ副学長、ニッパーラット科学技術学部副学部長 Thammasat University students & Dr. Somchai Chakhatrakan & Dr. Niparat Sritharet カンボジア：ワットボー小学校：プンキムチェン校長、田中千草校長補佐、児童約５０名他 Wat Bo Primary School: Pun Kimchen (Principal), Tanaka Chigusa (advisor to the principal), 50 pupils and others. 王立プノンペン大学：オウム　ラヴィー副学長、シアン　二モール日本語コース主任、タイン　ユー国際関係学部長 Royal University of Phnom Penh: Dr. Oum Ravy (Vice Rector), Seang Nimorl (course manager), Dr. Taing You (Director of International Relations)
Travel Cost 旅費	学生：個人　Students: individual 教員：山口大学教育研究財団、山口大学教育学部 Professors: Yamaguchi University Education & Research Fund, Faculty of Education
Current Results 当面の成果	・ タマサート大学との交流継続 Maintenance of friendship exchange program with Thammasat students ・ 王立プノンペン大学との交流実施 Establishment of the link with Royal University of Phnom Penh ・ 両国学生間の異文化間理解の促進 Promotion of the students' intercultural awareness and skills for intercultural communication ・ 学生のワットボー小学校での国際理解教育実践体験 Practice of education for international understanding by Yamaguchi University students
Possibility of Future Development 今後の発展性	タマサート大学および王立プノンペン大学との組織的交流の確立、ワットボー小学校での教育実践活動の継続 Exchange programs between Yamaguchi University and Thammasat University and the Royal University of Phnom Penh, Students' visit to Wat Bo Primary School in the future

Contents 内容	タマサート大学と王立プノンペン大学において、学生間の異文化間交流プログラムを実施し、ワットボー小学校においてカンボジアの小学生を対象とした教育実践体験を行った。 Programs for intercultural understanding between students at Thammasat University and Royal University of Phnom Penh. Practice of education for international understanding by Yamaguchi University students at Wat Bo Primary School
	ワットボー小学校での国際理解教育実践
	王立プノンペン大学学生との交流
	UNESCO バンコクオフィスでの講義
	タマサート大学学生との交流
Inquiries 問合せ先	石井由理　教育学部国際理解教育教室 TEL: 083-933-5423　E-mail: yuri@yamaguchi-u.ac.jp

6.教育学部　上原　一明　准教授
「建国百年国際木彫芸術活動」【台湾】

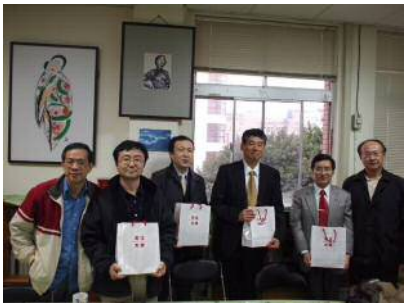
Project Title プロジェクト名	建国百年国際木彫芸術活動 http://www.warts.com.tw/index.html
YU Department 部局	教育学部
Date 期日	2011 年 9 月 1 日～10 月 1 日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	中華民国台湾　行政院農業委員会林務局東勢林区管理局
YU Participants 山大側参加者	教育学部：上原一明（准教授）
Counterparts 相手国側参加者	台湾：尼誕.達給伐歴、石振雄、沈培澤、施振木、曾安國、 魯碧.斯瓦那、賴冬信、賴永興、藍文萬、陳德隆 日本：稲葉 朗、吉田敦 韓国：金柱鎬 ネパール：KISHOR RAJBHANDARI 南アフリカ： JACO SIEBERHAGEN メキシコ：JAVIER ASTORGA チェコ：Emil Adamec スペイン：SALVADOR MARCO GISBERT アイスランド：SIGURGEIR THORDARSON
Travel Cost 旅費	先方からの招待
Current Results 当面の成果	１、中華民国台湾の建国百年記念事業としての国際木彫活動のメイン制作に参加。日本代表の彫刻家として参加することにより、山口大学の世界的広報を可能にした。
Possibility of Future Development 今後の発展性	１、参加作家に台湾の国立台湾芸術大学教員・賴永興（元・大葉大学教員）と大葉大学教員・吉田敦との交流により、これからの大学間交流の道筋が可能となる。来年、研究論叢に共同論文を執筆予定。 ２、現代木彫の様々な創作の可能性と技術交流ができた。また、国際的人脈を広げたので、国際交流の可能性が広がった。
Contents 内容	二年前の大型台風で倒木した木を用い、大型木彫作品を制作する。制作期間は 9 月 1 日から 27 日まで。完成後は国立東勢森林公園内に設置。10 月 1 日のセレモニーには中華民国大統領・馬英九が出席予定。台湾の文化事業に貢献。

	並べられた巨大な流木。
	制作初日の開幕式。政府関係者と世界の参加彫刻家が並ぶ。
	制作中の上原一明。
	制作途中の作品と上原一明。右は野外設置大型作品（高 2.3m×幅 4.5m）。左は室内展示小型作品（高 1 m）
Inquiries 問合せ先	教育学部学校教員養成課程　上原一明 TEL: 083-933-5404　E-mail: uehara@yamaguchi-u.ac.jp

7.教育学部　上原一明　准教授　他
「中日交流水墨画研討會（中日交流水墨画シンポジウム）」　【台湾】

Project Title プロジェクト名	中日交流水墨画研討會 （中日交流水墨画シンポジウム）
YU Department 部局	教育学部　やまぐち學
Date 期日	2012 年 3 月 8 日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	台湾・淡江大学　文学部中国文学学科
YU Participants 山大側参加者	菊屋吉生、中野良寿、葛崎偉、上原一明
Counterparts 相手国側参加者	馬銘浩、殷善培
Travel Cost 旅費	一人 7 万円
Current Results 当面の成果	山口大学と淡江大学との実質的交流
Possibility of Future Development 今後の発展性	両国の水墨画についての意見交換があり有意義であった。 台湾の学生にも、日本の水墨画の現状について多く学べたという意見があった。
Contents 内容	全体を上原がコーディネートした。 日本の水墨画について菊屋と中野が発表した。 葛が通訳をした。

シンポジウムのポスター
上原が作成。



淡江大学文学部中国文学学科を訪問。右端は殷主任。

Inquiries 問合せ先	教育学部学校教員養成課程　上原一明 TEL: 083-933-5404　E-mail: uehara@yamaguchi-u.ac.jp

8.教育学部　和泉　研二　教授　他
「アジア地域における国際教育協力事業－カンボジア王国Siem Reap州教員研修支援のモデル構築に関する研究」　【カンボジア】

Project Title プロジェクト名	アジア地域における国際教育協力事業－カンボジア王国 Siem Reap 州教員研修支援のモデル構築に関する研究 Project on International Educational Cooperation in Asia: A study on the Development of a model for in-service teacher training in the Province of Siem Reap, the kingdom of Cambodia
YU Department 部局	教育学部 Faculty of Education 国際協力活動推進プラットフォーム Platform for the promotion of activities for international cooperation
Date 期日	2011 年 12 月 11 日－2011 年 12 月 18 日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	1.　シェムリアップ州初等教育教員養成学校 Siem Reap Provincial Teacher Training College 2.　ワット・ボー小学校　Wat Bo Primary School 3.　チョンカル小学校　Chongkal Primary School 4.　スピッテラー小学校、取る路日案・宮下小学校、パックパン小学校、ササースダム群中核学校他、シェムリアップ州および近郊の小学校（several　primary schools around Siem Reap） 5.　JICA カンボジア事務所　JICA Cambodia office 6.　在カンボジア日本大使館 Embassy of Japan in Cambodia 7.　王立プノンペン大学 Royal Phnom Penh University 8.　在プノンペン NPO 法人:　シーセフ(CIESF)、 ハート・オブ・ゴールド（Hearts of Gold）
YU Participants 山大側参加者	和泉教授、海野教授、差益客員准教授、附属光小学校田中教諭、阿部元教授、教育学部４年林秀晃 Prof. Waizumi, Prof. Unno, Guest associate Prof. Saeki, Mr. Tanaka (Teacher of Hikari elementary school attached to Faculty of Education), Mr. Abe(Before Prof.), Mr. Hayashi(4th grade)
Counterparts 相手国側参加者	1.　リーブオラ校長　Leav Ora (principal) 2.　プンキムチェン校長　Peung Kimchheng (principal)、 田中千草校長補佐 Tanaka Chigusa (Advisor to the Principal)、マーパーラー教諭 Ma Phala (teacher) 3.4.　各学校長 (Principal) 5.　金沢代表 (Kanazawa, representative)、小林次長 (Kobayashi, Senior representative)、水沢コーディネーター (Mizusawa, coordinator)、小川 JICA プラザコーディネーター (Ogawa, JICA Praza coodinator) 6.　近藤二等書記官 (Kondo, Second Secretery) 7.　ラビー教授 (Prof. Ravy)、スタッフ (Staff)、学生 (Student) 8.　CIESF：金森理事 (Kanamori, Director) Hearts of Gold：山口理事 (Yamaguchi, Director)

Travel Cost 旅費	教育学部学部長裁量経費 Funded by the Dean of the Faculty of Education 国際協力活動推進プラットフォーム Platform for the promotion of activities for international cooperation
Current Results 当面の成果	ワット・ボー小学校教員の理科実験事業における観察・実験の重要性認識の向上 Improved recognition of the importance of observation and experiment-based approach in science class by Wat Bo Primary School teachers. ワット・ボー小学校教員の学校衛生・保険に対する意識向上 Improved recognition of the importance of schools hygiene and health by Wat Bo Primary School teachers. カンボジアにおける体育および理科の現状の把握 Understanding of the current state of physical education and science education in Cambodia by Yamaguchi University Staff.
Possibility of Future Development 今後の発展性	1）理科、保健体育分野における教員研修プログラムのモデル構築と実施 Development of a model for in-service teacher training program in the fields of natural science and health and physical education. 2）山口大学支援拠点校の開拓 Developments of a model school for support from Yamaguchi Univ.
Contents 内容	1) 昨年度から教科となった体育および理科教育を中心としたカンボジアの学校教育事情の調査 Research on Cambodian education situation with the emphasis on the subject of Physical Education, which was implemented as a subject from last year, and Science Education. 2) ワット・ボー小学校において、学校保健に関する現職教員を対象とした講習会の実施 In-Service training session on school health for Wat Bo teachers 3) 日本の教育支援の実態調査 Research on projects for Cambodian education from Japan
	シェムリアップ州初等教育教員養成学校 Siem Reap Provincial Teacher Training College、リーブオラ校長 Leav Ora(principal)（左から３番目）との面談

	ワット・ボー小学校における学校保健に関する現職教員を対象とした講習会 In-service training session on school health for Wat Bo teachers
	ワット・ボー小学校で行った体育の授業 Physical Education at Wat Bo Primary School
	チョンカル小学校の木造校舎内の様子 A class room of Chongkal Primary School
	王立プノンペン大学での交流風景 Discussion with students and staff of Royal Phnom Penh University
Inquiries 問合せ先	Kenji Waizumi (Prof.), Department of Preschool and School Education (Science Education), Faculty of Education, Yamaguchi University 教育学部学校教育教員養成課程理科教育選修 和泉研二（教授） TEL: 083-933-5355 E-mail: bec20@yamaguchi-u.ac.jp

9.経済学部　角田　由香　准教授
「第13回　日韓大学生の学術シンポジウムへの参加」　【韓国】

Project Title プロジェクト名	第 13 回　日韓大学生の学術シンポジウムへの参加 （The 13th Japan-Korea Youth Forum, Summer 2011: Conference of Business and Social Association)
YU Department 部局	経済学部経済学科
Date 期日	2011 年 8 月 21 日～2011 年 8 月 25 日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	大韓民国釜山市　慶星大学校
YU Participants 山大側参加者	経済学部経済学科：角田由佳（准教授）、 経済学部生 10 名（角田ゼミ）
Counterparts 相手国側参加者	慶星大学校、漢陽大学校、淑明女子大学校、明知大学校 各大学生あわせて 80 名程度（代表　明知大学校准教授　許棟翰） （＊日本からも、山口大学のほか、慶應義塾大学、関西学院大学が参加　各大学生あわせて 80 名程度）
Travel Cost 旅費	平成 23 年度学長経費　「教育・研究活動活性化経費」
Current Results 当面の成果	①　学生自ら、アジアの隣国、韓国内で経済学や経営学を学んでいる大学生とともに勉学することを通じて、国内外に自分達の活動の視野を広げる必要性を学ぶことができた。 ②　学生が進んで、日本国内外の学生との交流を行うことにより、とりわけ大学生のうちにコミュニケーションスキルを磨く重要性を実感できた。 ③　他国の文化・風習に触れる経験を通じて、他国の文化や習慣等を受け入れつつ、日本国民としてのアイデンティティを確立することの重要性を学ぶことができた。
Possibility of Future Development 今後の発展性	①海外の学生との交流を勉学・研究も含めて進められること。 ②学生の勉学、就職の場を国外にも広げること。
Contents 内容	まず、各国の大学生がすべてシャッフルされた形でグループ分けを行う。このグループが基本的に、シンポジウムでの活動をともにすすめる主体となる。このグループを単位として、以下の事が主に行われた。 ・　与えられたテーマ（グループ共通）に基づき、グループ内で資料収集を行う。 ・　グループ内で、調査分析・ディスカッションを行い、報告準備を行う。 ・　大会において各グループが報告資料を提出、発表し、全グループで討論を行う。 ・　各発表に対する審査･表彰が行われる（参加大学教員による）。 ・　グループごとに、韓国釜山内・周辺にある文化・教育施設等に訪問、社会体験を積む。
Inquiries 問合せ先	経済学部経済学科　准教授　角田　由佳（つのだ　ゆか） TEL: 083-933-5578　E-mail: ytsunoda@yamaguchi-u.ac.jp

10.経済学部　朝水　宗彦　准教授　他
「外国人研究員の受入れ」　【オーストラリア】

Project Title プロジェクト名	外国人研究員の受入れ
YU Department 部局	東アジア研究科
Date 期日	2011 年６月 10 日－８月９日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	メルボルン工科大学（オーストラリア） Royal Melbourne Institute of Technology University (Australia)
YU Participants 山大側参加者	東アジア研究科、経済学部、教育学部、留学生センター等の教員や学生
Counterparts 相手国側参加者	Professor Stephen Alomes ステファン　アロメス　教授
Travel Cost 旅費	山口大学が支給
Current Results 当面の成果	大学院の授業、院生・学部生への教育指導、公開学術講演会、『東アジア研究』誌への寄稿
Possibility of Future Development 今後の発展性	大学院生の研究指導（特に英語基準で入学した留学生）、『東アジア研究』誌での査読（特に英語で書かれた院生の論文）、教員間の共同研究
Contents 内容	東アジア経済・経営・法律特別講義を担当。７月 14 日に開催された公開学術講演会には 30 名ほどの教員や大学院生、市民等が参加し、学部開講授業の観光コミュニケーション論（受講生 30 人）にも複数回ゲストとして参加した。
Inquiries 問合せ先	山口大学経済学部　朝水宗彦 E-mail: masamizu@yamaguchi-u.ac.jp Stephen Alomes, Design & Social Context Office, Royal Melbourne Institute of Technology University E-mail: salomes@melbpc.org.au

11.農学部　音井　威重　教授
「希少野生トラの精液凍結保存法の開発」　【インドネシア】

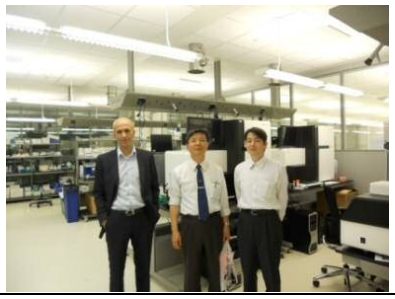
Project Title プロジェクト名	Development of sperm freezing method in endangered wild tiger 希少野生トラの精液凍結保存法の開発
YU Department 部局	Faculty of Agriculture, Department of Veterinary Science 農学部獣医学科
Date 期日	2011.11.11-2011.12.8
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Bogor Agricultural University（Indonesia) ボゴール農業大学（インドネシア） Taman Safari Indonesia, Bogor タマンサファリ
YU Participants 山大側参加者	Faculty of Agriculture：Takeshige Otoi (Prof.), Zhao Namula (PhD student)、Fuminori Tanihara　(PhD student)、 National Institute of Agrobiological Sciences：Kazuhiro Kikuchi（Senior Researcher) 獣医学科：音井威重(教授)、照那木拉(院 3 年）、谷原史倫(院 2 年）、農業生物資源研究所：菊地和弘（主席研究員）
Counterparts 相手国側参加者	Bogor Agricultural University: Dr. MohamadAgusSetiadi, Dr. MokhamadFahrudin, Dr. Yudi, Dr. Ligaya ITA Tumbelaka, Dr. Karja Ni Wayan Kurniani
Travel Cost 旅費	JSPS(二国間交流事業共同研究)
Current Results 当面の成果	1. We found that the sperm from Sumatran Tiger can be fertilized with domestic cat oocytes. 2. Two PhD students from our university stayed and studied for 3-4 weeks in Bogor Agricultural University. 3. One PhD student from Bogor Agricultural University studies for 2 months in our university. 研究成果として、スマトラトラ精子は家ネコ由来の卵子と受精することが確認された。また本学大学院生 2 名またボゴール農業大学院生 1 名がそれぞれの大学で滞在し、研究を行った。
Possibility of Future Development 今後の発展性	The program will be performed for 3 years. In this program, we exchange the students between the two universities and develop the freezing methods of semen collected from Sumatran tigers. 本プログラムは、3 年間で行われるもので、ボゴール農業大学との学生交換 及びスマトラトラ精子保存技術の開発を行う。
Contents 内容	In the first year, we examined the characteristics and penetrability of Sumatran tiger spermatozoa cryopreserved with different type of cryoprotective sugars (lactose, glucose, and trehalose.) Ejaculated semen were collected from two healthy male adult Sumatran tigers (SB#1099 and SB1512) belonged to Taman Safari Indonesia, Bogor. Heterologous IVF with domestic cat oocytes was used to assess the penetrability of frozen-thawed Sumatran tiger spermatozoa. Frozen-thawed Sumatran tiger sperm were able to fertilize with in-vitro matured cat oocytes, irrespective of type cryoprotective sugars. 初年度の研究として、異なる糖類を添加した凍結保存液でスマトラ

	トラの精子を凍結保存し、その精子性状および受精能を検査した。試験は、タマンサファリ―で飼養されている 2 頭のトラから射出された精液を凍結保存し、家ネコ由来の卵子と体外受精を行って、受精能を調べた。糖類のタイプに関わらずスマトラトラ由来の凍結融解精子は家ネコ由来の体外成熟卵子と受精することが確認された。
	Veterinary clinic in Taman Safari Indonesia タマンサファリ―内のトラ専用獣医舎
	Sumatran tiger. He is resting? He was powerful when I saw nearby. スマトラトラ。休んでいるのかな？近くで見ると迫力あります。
	After anesthesia, body health was checked and then his semen was collected. 麻酔後身体検査して、電気刺激により精液を回収。
	Check of teeth. 歯の検査

	Collected semen. 回収した精液
Inquiries 問合せ先	T.Otoi, PhD., Professor, Department of Animal Reproduction Joint Faculty of Veterinary Medicine 共同獣医学部、獣医繁殖学講座、音井威重（教授） TEL/FAX:0839-33-5904　E-mail: otoi@yamaguchi-u.ac.jp

12.大学院医学系研究科（医学）　服部　幸夫　教授　他
「サウジアラビアのKAUST（王立大学院大学）訪問」　【サウジアラビア】

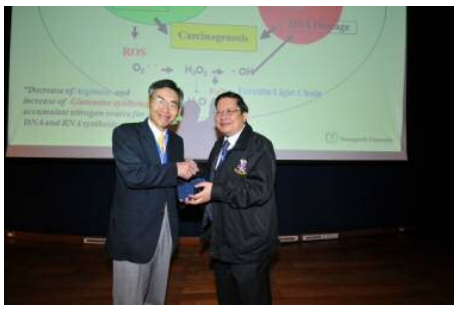
Project Title プロジェクト名	Visit to Royal Graduate School, KAUST in Saudi Arabia サウジアラビアの KAUST（王立大学院大学）訪問
YU Department 部局	Faculty of Health Sciences 医学部保健学科
Date 期日	2011.0429-2011.0503
University or Institution Abroad 相手大学・施設	King Abdullah University of Science and Technology (KAUST)(Saudi Arabia)
YU Participants 山大側参加者	Faculty of Health Science : Yukio Hattori (prof), Yasuhiro Yamashiro (associate prof) 保健学科：服部幸夫（教授）、山城安啓(准教授)
Counterparts 相手国側参加者	Prof Sami (Saudi Arabia), Dr. Matar (UAE), Dr. Naveed (UAE)
Travel Cost 旅費	Invitation from KAUST 先方からの招待
Current Results 当面の成果	1. Information of an appropriate graduate school abroad for YU undergraduate students to proceed was obtained. 2. Information for Job hunting of YU students (undergraduate & master students) was obtained. 3. Mutual communication and project of joint research were initiated. １．学部生の海外における大学院進学に関する情報を入手した ２．学部・大学院卒業生の海外の就職先（技術者）の情報を入手した ３．情報交換・共同研究の打ち合わせ（学術講演を含む）を行った
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Sending graduate students and staff for short or long term (research). 2. Getting job as a technologist: announcement to other relevant departments (Agriculture, Science, Education and Technology). 3. Extension of the joint research to other research units of YU １．大学院生や教員の短長期の留学（研究） ２．他の理系学部・研究科の学生の就職先の確保 ３．共同研究の内容、グループ数の拡大
Contents 内容	KAUST is equipped with newest sequencers, real time PCR and so on, and conducting vigorous research, especially associated with marine biology. The fee for tuition and dormitory are free for the students. The technologists (scientists) seem to be high ranked, and provided with good salary, no tax, free accommodation and kindergarten. The job may be tough for those who lack the scientific talent. Most students and technologists are from abroad. One who wants to study or work in the Bioscience Dept of KAUST can contact prof Hattori. KAUST の Bioscience department は次世代のシークエンサー、real time PCR など最新の機器を完備して、活発に研究活動(特に marine biology)を行っていた。大学院生の授業料、寮は全て無料で提供されている。技術者は優秀で、高給、無税、宿舎無料、幼稚園無料という条件の良さであるが、科学的才能に乏しい者にはやや辛い。学生も技術者も海外からの者が大多数。留学・就職希望者は服部まで。

	Vast area of the KAUST campus facing Red Sea. Dome is visible. KAUST の広大なキャンパスの一角(宿舎等)。紅海に面している。
	One of the buildings of KAUST. Everything is large and tough. KAUST の建物の一つ。何もかもが大きく強固。
	Sections of DNA analysis, Bioscience dept. Sequencers are renewed every year. Bioscience labo の一部。ここは DNA 分析 section。Sequencer は毎年、買い換えられている。
	Bioscience. Prof Sami (left), Prof Hattri (middle), associate prof Yamashiro (right) DNA labo の一角。Bioscience 部門の長である professor Sami（左端）と訪問者（左から 2 人目の服部、右端の山城）。
	In front of the guest house. From the left, Dr Naveed (UAE), asso prof Yamashiro (YU), prof Sami (KAUST), Dr Matar (UAE), prof Hattori (YU). Drs Naveed and Matar belong to UAE Genetic Disease Association. Guest house の前で。UAE から合流した共同研究者の Dr. Matar(左から 4 人目)と、Dr. Naveed（左端）も見学し、共同研究の打ち合わせが出来ました。2 人とも UAE 遺伝病協会の director。

Inquiries 問合せ先	Yukio Hattori (prof), Dept of Clin Lab Sci, Faculty of Health Science, YU School of Medicne 医学部保健学科検査技術学専攻 服部幸夫(教授) TEL: 0836-22-2807 E-mail: yhattori@yamaguchi-u.ac.jp

13.大学院医学系研究科（医学）　中村　和行　教授
「タイ国マヒドン大学医学部・大学院医学研究科および附属シリラート病院訪問
アジア・オセアニアヒトプロテオーム機構（HUPO）の教育訓練活動の一環として疾患プロテオーム研究の教育訓練のための講演」　【タイ】

Project Title プロジェクト名	Visit to Mahidol University Graduate School and School of Medicine and Siriraj Hospital in Thailand. Education and Training of Disease Proteomics in Asia & Oceania HUPO タイ国マヒドン大学医学部・大学院医学研究科および附属シリラート病院訪問 アジア・オセアニアヒトプロテオーム機構（HUPO）の教育訓練活動の一環として疾患プロテオーム研究の教育訓練のための講演
YU Department 部局	Graduate School of Medicine 大学院医学系研究科
Date 期日	2011.8.29-9.2
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Mahidol University (MU) Graduate School and School of Medicine (Bangkok, Thailand) マヒドン大学医学部・大学院医学研究科（タイ国、バンコク市）
YU Participants 山大側参加者	Graduate School of Medicine：Kazuyuki Nakamura (Professor) 大学院医学系研究科：中村和行（教授）
Counterparts 相手国側参加者	Prof. Visith Thongboonkerd (Professor, MU Graduate School of Medicine), Prof. Jisnuson Svasti (Professor, MU Faculty of Science, President of Proteomics Society in Thailand)
Travel Cost 旅費	Invitation from SDU and Grant from Yamaguchi University and Japanese Ministry of Welfare and Labor for promotion of the International Exchange Program 先方からの招待と国際交流促進のための山口大学および厚生労働省科学研究費による外部資金
Current Results 当面の成果	1. The information for future international exchange program between Yamaguchi University (YU) Graduate School of Medicine and MU for graduate students was obtained. 2. The strategies for mutual communication and the project of joint research were discussed. １．大学院生および学部生の大学間国際交流将来計画に関する情報を入手した。 ２．情報交換ならびに共同研究（学術講演などを含む）の戦略について検討した。
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Reception of graduate students (research program). 2. Extension of mutual communication and joint research in the fields of Medicine and Life Science such as Genomics and Proteomics. １．大学院医学系研究科医学博士課程および博士前期・後期課程への受け入れと医学部医学科での短期留学 ２．ゲノム研究やプロテオーム研究など医学および生命科学分野での共同研究の促進
Contents 内容	Lectures of Disease Proteomics were given in International Presidents & Deans Forum on Medical Education was held in the campus of MU Graduate School of Medicine and Siriraj Hospital　in Bangkok, Tahiland from August 29th to Septemebr 2nd for the promotion of Education and Training of Human Proteomics under the name of Asia and Oceania HUPO.　The MU School of Medicine and Siriraj Hospital were established in 1890. The school and Siriraj hospital are the oldest

	and largest Medical School and Hospital in Thailand as a Medical Centre in Bangkok where advanced research on genomics and proteomics in the field of medical science is initiated with 1000 talented students with young researchers. We discussed on the future plan of international collaboration to promote international collaborative research between Yamaguchi University Graduate School and School of Medicine and MU Graduate School of Medicine. アジア・オセアニアヒトプロテオーム機構（HUPO）の教育訓練活動の一環としてマヒドン大学大学院医学研究科および附属シリラート病院にて 8 月 29 日～9 月 2 日まで疾患プロテオーム研究の講演を行った。　マヒドン大学医学部と附属シリラート病院は 1890 年に創立され、タイでは最も古い歴史を誇り最大の病院施設を有するとともに 1000 人超える優秀な医学生や若手研究者が医科学分野でゲノム研究やプロテオーム研究の先端研究を目指している。今回の教育訓練を通じて、山口大学大学院医学系研究科とマヒドン大学医学部・大学院医学研究科との国際共同研究を促進することを検討した。
	マヒドン大学医学部･附属シリラート病院の医学分子生物学講座のセミナー室で How to make Proteomics と題してプロテオーム研究の教育講演を行った。
	マヒドン大学医学部・附属シリラート病院での教育訓練に参加した大学院生ならびに若手研究者。最前列左手が Visith Thongboonkerd 教授
	マヒドン大学及びタイプロテオーム学会の共同開催による疾患プロテオームシンポジウムでの講演。中央右手が　Jisnuson Svasti 教授。
Inquiries 問合せ先	Kazuyuki Nakamura, Professor and Chairman, Department of Biochemistry and Functional Proteomics, YU School of Medicine 山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系専攻プロテオーム・蛋白機能制御学分野　中村和行（教授） TEL/FAX: 0836-22-2212　E-mail: nakamura@yamaguchi-u.ac.jp

14.大学院医学系研究科（医学）　中村　和行　教授
「中国山東大学医学院訪問、百周年記念事業記念式典参加ならびに医科大学長・医学部長の国際医学教育フォーラムでの講演」【中国】

Project Title プロジェクト名	Visit to Shandong University School of Medicine for the Centennial Celebration and the Lecture in International Presidents and Deans Forum on Medical Education 中国山東大学医学院訪問 百周年記念事業記念式典参加ならびに医科大学長・医学部長の国際医学教育フォーラムでの講演
YU Department 部局	School of Medicine 医学部
Date 期日	2011.1012-14
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Shandong University (SDU) School of Medicine (Jinan, Shandong, China) 山東大学医学院（中国山東省済南市）
YU Participants 山大側参加者	School of Medicine：Kazuyuki Nakamura (Professor) 医学部：中村和行（教授）
Counterparts 相手国側参加者	Prof. Yun Zhang (Vice President for International Relations and Clinical Medicine, Dean of School of Medicine, SDU), Prof. Chunhong Ma (Vice Dean of Medical School, SDU)
Travel Cost 旅費	Invitation from SDU 先方からの招待
Current Results 当面の成果	1. The history of School of Medicine of SDU and the strategy of future promotion of Medical Education in SDU were introduced. 2. The information for future international exchange program between Yamaguchi University (YU) and SDU for graduate students, undergraduate students was obtained. 3. The strategies for mutual communication and the project of joint research were discussed. １．山東大学医学院の歴史と医学教育の充実に係る将来計画が紹介された。 ２．大学院生および学部生の大学間国際交流将来計画に関する情報を入手した。 ３．情報交換ならびに共同研究（学術講演などを含む）の戦略について検討した。
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Promotion of mutual communication and international exchange of medical students and staff between YU and SDU. 2. Reception of graduate students (research program) and medical students (summer school for short visit). 3. Extension of mutual communication and joint research in the fields of Medicine and Life Science such as Genomics and Proteomics. １．山口大学医学部と山東大学医学院での学部間相互理解と医学生や教職員の相互の情報交換の促進。 ２．大学院医学系研究科医学博士課程および博士前期・後期課程への受け入れと医学部医学科での短期留学 ３．ゲノム研究やプロテオーム研究など医学および生命科学分野での共同研究の促進

Content 内容	The International Presidents & Deans Forum on Medical Education was held in the campus of SDU in Jinan, Shandong, China from October 12th to 14th for the Centenary Celebration of SDU School of Medicine. The School of Medicine was established in 1911 as a Medical school in Jinan and has been developed to be SDU School of Medicine where more than 3000 talented students and 1024 teachers in 28 Departments and 8 Hospitals as a National Center for Medical Education and Research. We discussed on the future plan of international collaboration to promote Medical Education and Research in Yamaguchi University Graduate School and School of Medicine. 山東大学医学院の創立 100 周年記念行事として医科大学長・医学部長による医学教育のための国際フォーラムならびに記念式典が 10 月 12 日～14 日まで開催された。山東大学医学院は 1911 年済南市に共和医道学堂として設立され、現在 28 の講座と 8 か所の附属病院を有し、3000 人超える優秀な医学生が 1024 名の教師とともに学び、中国における医学教育・研究の国家的中心となっている。 今回の表敬訪問を通じて、山口大学医学部と山東大学医学院との医学教育・研究の国際協同を促進することを検討した。
	山東大学医学院国際交流担当事務の Lingzi Zhou さん（右から 2 人目）と山口大学大学院博士課程で博士号を取得した中国留学生の張秀蓮博士（向かって右から 3 人目）ならびに 100 周年記念行事のボランティア医学生と山東大学医学院の講義棟など建物の前で撮影
	山東大学副学長で山東大学医学院長の Yun Zhang 教授（中央）を表敬訪問した折に山口大学からの記念品を贈呈した。山東大学医学院副院長の Chunhong Ma 教授（Zhang 教授の右となり）と共に撮影
	山東大学医学院長の Yun Zhang 教授に表敬訪問した際に記念として頂いた書巻とともに撮影され、山東大学医学院のホームページに掲載 http://www.medicine.sdu.edu.cn/news/news/gzjl/2011-10-13/1318475396.html
	山東大学医学院 100 周年記念事業の国際医科大学長・医学部長による医学教育フォーラムでの講演 http://www.medicine.sdu.edu.cn/news/news/gzjl/2011-10-13/1318475396.html

	山東大学医学院 100 周年記念式典で撮影
Inquiries 問合せ先	Kazuyuki Nakamura, Professor and Chairman, Department of Biochemistry and Functional Proteomics, YU School of Medicine 山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系専攻プロテオーム・蛋白機能制御学分野　中村和行（教授） TEL/FAX: 0836-22-2212　E-mail: nakamura@yamaguchi-u.ac.jp

15.大学院医学系研究科（医学）　陳　献　教授
「中国科学技術大学訪問」【中国】

Project Title プロジェクト名	中国科学技術大学訪問
YU Department 部局	医学系研究科　応用医工学系専攻
Date 期日	2011.09.15-2011.09.18
University or Institution Abroad 相手大学・施設	中国科学技術大学（中国）
YU Participants 山大側参加者	医学系研究科　応用医工学系専攻　陳　献（教授）
Counterparts 相手国側参加者	情報科学研究院生体医工学研究センター　趙剛　教授 工学研究院生体力学研究室　賀纓　教授
Travel Cost 旅費	山口大学負担
Current Results 当面の成果	１．学術講演及び研究室見学，研究者とのディスカッションを通じて研究交流を行った。 ２．今後展開可能な共同研究のテーマと取り組みについて打合せを行った。
Possibility of Future Development 今後の発展性	１．国際交流事業の申請による共同研究の展開 ２．講演や講義による学術交流 ３．大学院生や教員の短期留学
Content 内容	中国科学技術大学では電気電子，力学，熱力学など各分野の研究者が生体医工学研究に従事しており，今後の活発な研究が期待できる。
	中国科学技術大学西キャンパス．工学系の学部がここに集中している。
	大学名が刻まれている大きな石。
Inquiries 問合せ先	大学院医学系研究科（医学）応用医工学系専攻　陳　献（教授） TEL: 0836-85-9146　E-mail: xchen@yamaguchi-u.ac.jp

16.大学院医学系研究科（医学）　陳　献　教授
「上海交通大学訪問」【中国】

Project Title プロジェクト名	上海交通大学訪問
YU Department 部局	医学系研究科　応用医工学系専攻
Date 期日	2011.09.19-2011.09.21
University or Institution Abroad 相手大学・施設	上海交通大学（中国）
YU Participants 山大側参加者	医学系研究科　応用医工学系専攻　陳　献（教授）
Counterparts 相手国側参加者	生物医学製造と生命質量工程研究所　所長　羅　雲　教授 システム生物医学研究院　張　延　教授
Travel Cost 旅費	山口大学負担
Current Results 当面の成果	１．学術講演及び研究室見学，研究者とのディスカッションを通じて研究交流を行った。 ２．今後展開可能な共同研究のテーマと取り組みについて打合せを行った。
Possibility of Future Development 今後の発展性	１．国際交流事業の申請による共同研究の展開 ２．講演や講義による学術交流 ３．大学院生や教員の短期留学
Content 内容	上海交通大学では生体医工学研究に対する熱意を強く感じた。また，羅教授と張教授が共に東京大学の博士号を取得しており，今後の研究協力の展開に期待できる。

右から順に：張延教授，羅雲教授，訪問者。

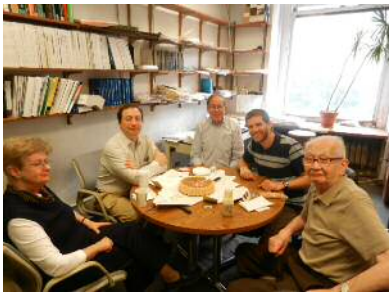
立派な校門と広大なキャンパス。

Inquiries 問合せ先	大学院医学系研究科（医学）応用医工学系専攻　陳　献（教授） TEL: 0836-85-9146　E-mail: xchen@yamaguchi-u.ac.jp

17.大学院理工学研究科（理学）　安達　健太　准教授
「アメリカ合衆国コロンビア大学のNakanishi-Berova研究室訪問」【アメリカ合衆国】

Project Title プロジェクト名	Visit to Prof. Koji Nakanishi and Prof. Nina Berova Laboratory in Columbia University, USA. アメリカ合衆国コロンビア大学の Nakanishi-Berova 研究室訪問
YU Department 部局	Department of Chemistry 理学部化学
Date 期日	2011/08/30-2011/09/30
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Columbia University (USA) コロンビア大学（アメリカ合衆国）
YU Participants 山大側参加者	Ass. Prof. Kenta ADACHI 安達健太 准教授
Counterparts 相手国側参加者	Prof. Koji Nakanishi Prof. Nina Berova George A. Ellestad, PhD. Ben Meir Maoz, PhD. Arie Zask, PhD.
Travel Cost 旅費	Sabbatical release in Faculty of Science, Yamaguchi Univ. 山口大学理学部サバティカル研修制度
Current Results 当面の成果	Chirality detection of the amino acid compounds using the organic-inorganic hybrid material in visible region. 有機無機ハイブリッド材料を用いたアミノ酸化合物対掌性の検出
Possibility of Future Development 今後の発展性	Collaboration in the corresponding research field. 該当研究領域でのコラボレーション
Contents 内容	Many famous researchers worldwide are in Faculty of Science, Columbia University. Especially, Prof. Nakanishi and Benova are leading experts of the chirality research using the exciton coupling model. Moreover, many young researchers (including PhD student and the post-doctoral researcher) visit and stay at Nakanishi-Benova laboratory from all over the world. 世界的に著名な研究者がコロンビア大学理学部に在籍している。中西教授、Benova 教授は、励起子モデルを用いたキラリティー研究の第一人者である。中西-Benova 研究室には、世界中から若手研究者が集まっている。

Columbia University is located in the uptown of the Manhattan Island, New York city.
コロンビア大学は、ニューヨーク マンハッタン島のアップタウンに位置する。

	Low Library in Columbia Univ. This building is symbol of Columbia Univ. 旧図書館。この建物はコロンビア大学のシンボルでもある。
	Havemayer building All laboratories of chemistry are located in this building. Havemayer 棟。理学部化学コースの研究室が入っている。
	At break time. Left to right: Nina (Prof.), Aria (researcher in pharmaceutical), George (visiting scientist), Ben (post-doctoral researcher from Israel), and Koji (Prof.). 日常のラボティータイムにて
	Me in lab. 実験中の筆者
Inquiries 問合せ先	Ass. Prof. Kenta ADACHI. Graduate School of Science & Engineering, Yamaguchi University. 大学院理工学研究科（理学）　安達健太（准教授） TEL: 083-933-5731　E-mail: k-adachi@yamaguchi-u.ac.jp

18.大学院理工学研究科（理学）　増本　誠　教授
「ハノイ理工科大学での数学講義」【ベトナム】

Project Title プロジェクト名	Mathematical Lectures at Hanoi University of Science and Technology ハノイ理工科大学での数学講義
YU Department 部局	Department of Mathematical Sciences, Faculty of Science 理学部数理科学科
Date 期日	2012.02.29-2012.03.09
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Hanoi University of Science and Technology ハノイ理工科大学
YU Participants 山大側参加者	Makoto Masumoto (prof.), Yasushi Hataya (assistant prof.) 増本誠（教授），幡谷泰史（助教）
Counterparts 相手国側参加者	Professors Le Hung Son, Pham Trieu Duong, Dao Viet Cuong, etc. (Vietnam)
Travel Cost 旅費	４４万円 山口大学法人運営費
Current Results 当面の成果	1. Giving a series of mathematical lectures 2. Exchanging research results １．数学の集中講義を行った。 ２．研究上の情報交換をした。
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Accepting graduate students 2. Doing joint research in mathematics １．大学院留学生の受け入れ ２．数学の共同研究の実施
Contents 内容	Masumoto and Hataya gave a series of lectures entitled “Conformal mappings of multiply connected domains” and “Analytic perturbation theory and Navier-Stokes equations with free boundary”, respectively, to professors and students of Hanoi University of Science and Technology and nearby universities, and exchanged research results with them. 増本と幡谷が，ハノイ理工科大学及び近隣の大学の教員や学生を対象に，それぞれ，「複連結領域上の等角写像」，「解析的摂動論と自由境界を伴うナビエ・ストークス方程式」という標題で集中講義を行い，研究成果について情報交換をした。

Lecture by Masumoto
講義風景（増本）

	Lecture by Hataya 講義風景（幡谷）
	Attendance 講義風景（参加者）
	Campus キャンパス風景
Inquiries 問合せ先	Makoto Masumoto (prof.), Department of Mathematical Sciences, Faculty of Science 理学部数理科学科　増本誠（教授） TEL: 083-933-5660　E-mail: masumoto@yamaguchi-u.ac.jp

19.大学院理工学研究科（理学）　廣澤　史彦　教授
「ベトナムの大学との研究交流プロジェクト」【ベトナム】

Project Title プロジェクト名	ベトナムの大学との研究交流プロジェクト
YU Department 部局	大学院理工学研究科（理学）
Date 期日	平成２３年４月　～　平成２４年３月（12 ヶ月間）
University or Institution Abroad 相手大学・施設	ハノイ理工科大学、ハノイ師範大学（ベトナム）
YU Participants 山大側参加者	廣澤史彦、猪岡拓広（理工学研究科大学院生）
Counterparts 相手国側参加者	Le Hung Son 教授（ハノイ理工科大学）、Pham Trieu Duong 講師（ハノイ師範大学）他
Travel Cost 旅費	山口大学 ２７万円（H24.1.7～H24.1.16）
Current Results 当面の成果	・偏微分方程式の最新の研究に関する集中講義の実施 ・共同研究の論文を執筆
Possibility of Future Development 今後の発展性	・双方の研究者や大学院生を交えた組織的な研究活動 ・大学院生の長短期の留学
Contents 内容	ハノイ理工科大学において、大学院生や周辺大学の教員を対象とした偏微分方程式の最新の研究に関する講義を行った。また、過去の交流事業で知り合ったベトナムの研究者と共同研究事業を遂行した。
Inquiries 問合せ先	大学院理工学研究科（理学）数理科学専攻　廣澤史彦（教授） E-mail: hirosawa@yamaguchi-u.ac.jp

20.大学院理工学研究科（工学）　上村　明男　教授
「**Visiting McGill University**」【カナダ】

Project Title プロジェクト名	Visiting McGill University
YU Department 部局	Kamimura Laboratory, Department of Applied Molecular Bioscience, Graduate School of Medicine
Date 期日	10/June/2011
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Department of Chemistry, McGill University
YU Participants 山大側参加者	Professor Akio Kamimura
Counterparts 相手国側参加者	Professor C.-J. Li
Travel Cost 旅費	Yamaguchi University
Current Results 当面の成果	1. Promotion of academic exchange and collaboration.
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Expanding the opportunity for academic staff exchange 2. Promoting international collaborative work in chemistry
Contents 内容	McGill chemistry department is one of the leading chemistry departments in Canada and the world. This opportunity for visiting the department is a starting point of future relationship. At the moment a former PhD student of YU PhD course is working as a post-doc in the department, and a new PhD from YU is going to join the group from October.　At the moment the relationship relays and is promoted based on personal relationship.
Inquiries 問合せ先	Professor Akio Kamimura Department of Applied Molecular Bioscience, Graduate School of Medicine, Yamaguchi University (Also Department of Applied Chemistry, Faculty of Engineering) E-mail: ak10@yamaguchi-u.ac.jp　ext 9231

21.大学院理工学研究科（工学）　上村　明男　教授
「**Visiting University College of London**」【イギリス】

Project Title プロジェクト名	Visiting University College of London
YU Department 部局	Kamimura Laboratory, Department of Applied Molecular Bioscience, Graduate School of Medicine
Date 期日	29/July/2011
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Department of Chemistry, University College of London
YU Participants 山大側参加者	Professor Akio Kamimura
Counterparts 相手国側参加者	Professor William B. Motherwell, Dr. Mike Porter
Travel Cost 旅費	Yamaguchi University
Current Results 当面の成果	1. Promotion of students exchange. Three of our PhD students stayed/are staying at the department by the moment. 2. Promotion of academic exchange and collaboration. In 2013, Choshu-London symposium will be planned.
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Expanding the opportunity for the students exchange. 2. Expanding the opportunity for academic staff exchange 3. Promoting international collaborative work in chemistry
Contents 内容	UCL chemistry department is one of the leading chemistry department in UK and the world. Research level in chemistry is in an excellent level so YU gains a lot of opportunity to enhance our research activity and to improve student education for PhD course. This is only one opportunity for PhD students in Chemistry in YU taking excellent education/research in foreign outstanding university in long term (6-10 months). At the moment the relationship relays and is promoted based on personal relationship. If YU hopes to strength the relationship, much more financial and human resource supports is definitely needed.
	From right to left: Professor Kamimura (YU), Mr. So (YU PhD course, exchanging student), Mr. Nakano (YU PhD course, exchanging student), Professor Motherwell (UCL, their superviser), at a laboratory in chemistry department of UCL
Inquiries 問合せ先	Professor Akio Kamimura Department of Applied Molecular Bioscience, Graduate School of Medicine, Yamaguchi University (Also Department of Applied Chemistry, Faculty of Engineering) E-mail: ak10@yamaguchi-u.ac.jp　ext 9231

22.大学院理工学研究科（工学）　兵動　正幸　教授
「山口大学・全北大学・韓国建設技術研究院による地盤分野での石炭灰の再利用に関する第２回ジョイントワークショップ」【韓国】

Project Title プロジェクト名	The Second Joint Workshop on Recycle Technique of Coal Ash for Geotechnical Field between Japan Yamaguchi University, Korea Chonbuk national University and Korea Institute of Construction Technology (KICT) 山口大学・全北大学・韓国建設技術研究院による地盤分野での石炭灰の再利用に関する第 2 回ジョイントワークショップ
YU Department 部局	Faculty of Engineering, Department of Civil and Environmental Engineering, Geotechnical Division 工学部社会建設工学科　地盤系グループ
Date 期日	2011.0926-2011.0928
University or Institution Abroad 相手大学・施設	ChonbukNational University (Korea), Korea Institute of Construction Technology (ditto) 全北大学，韓国建設技術研究院（韓国）
YU Participants 山大側参加者	Graduate School of Science and Engineering: Masayuki Hyodo (prof.) University Evaluation Department: Motoyuki Suzuki(associate prof.) Graduate School of Science and Engineering: Li Zhuang (PH.D candidate), Mari Ushiroda (graduate student), Arika Kato (ditto), Noboru Sato (ditto), Yusuke Sugishita (ditto)
Counterparts 相手国側参加者	Prof. Kim You Seong(ChonbukNational University) Dr. Cho Sam-Deok (Korea Institute of Construction Technology) Dr. Kim Uk-Gie (ditto) Dr. Kim Ju-Hyung (ditto) Dr. Jae-Hong Kim (ChonbukNational University)
Travel Cost 旅費	共同研究等の外部資金
Current Results 当面の成果	1. Research outcomes were published and presented. 2. Mutual communication was initiated. 3. Information of construction innovation was obtained. 1. 研究成果を論文発表し，口頭発表した 2. 情報交換を行った 3. 建設技術革新に関する情報を取得した
Possibility of Future Development 今後の発展性	Offshore geotechnical engineering concerning with development of natural energy and source will be taken up as topic of research and Corroboration project. 自然エネルギーや資源開発に関連した海底地盤の諸問題が研究および共同プロジェクトのトピックとして取り上げられる。

Contents 内容	Thisworkshop provides a venue where the participants can share the latest outcomesin recycle technique of coal ash, and explorenew use of coal ashin the field of geotechnical engineering.In the future, we aim for conducting the joint research concerning with recycle technique of coal ash and other similar materials. 　本ワークショップは石炭灰のリサイクル技術に関する最新の成果を共有し，地盤分野での利用用途を模索する場所を提供するものである。今後，我々は石炭灰および類似の材料のリサイクル技術に関する共同研究の実施を目指している。
	集合写真。前列左 2 人目から，鈴木准教授，Kim 教授，兵動教授，Cho 部長。本ワークショップは，これまでに地盤改良をテーマとして３回，石炭灰をテーマとして１回の計４回開催しており, 今回が５回目となる。
	全北大学 Kim You Seong 教授による開会挨拶 Kim 教授は東大に留学されていたことから，日本語が堪能である。現在は，地中埋設された高電圧ケーブルの熱処理問題に取り組まれている。
	韓国建設技術研究院 Cho 部長の挨拶 旧日本道路公団に留学されたこともあり，日本の建設技術の動向に関心を持たれている。また，このワークショップの発展にご尽力いただいている。
	Kim Uk-Gie 氏の司会 社会建設工学科の卒業生で，理工学研究科で博士（工学）を取得された。現在，韓国建設技術研究院の上級研究員として活躍されている。

	KOCED Wind Tunnel Center の視察 全北大学の風洞実験施設。世界で 4 番目の規模を誇る。風による土木構造物の振動を再現する模型と設備を有す。前列左から 2 人目の Dr. Lee に施設案内いただいた。
	風洞実験室で強風を体験させていただいた。学生は大喜びであった。
	博士後期課程 3 年庄麗さんの研究発表。このあと, 博士前期課程 2 年の後田真理さん, 同 1 年の加藤晃君が続けて発表。
	博士前期課程 1 年佐藤登君の研究発表の様子。このあと，同 1 年の杉下裕輔君が発表した。参加学生から，「英語による発表経験で自信がついた」「外国でも日本と同じ課題があることがわかった」「次回も参加できるよう研究を頑張りたい」の評があった。
Inquiries 問合せ先	理工学研究科（工学）　兵動正幸（教授） TEL: 0836-85-9343　E-mail: hyodo@yamaguchi-u.ac.jp

23.大学院理工学研究科（工学）　吉武　勇　准教授　他
「中国寧夏省銀川　寧夏大学　訪問」【中国】

Project Title プロジェクト名	Visit to Ningxia University, Yinchuan, Ningxia, China 中国寧夏省銀川　寧夏大学　訪問
YU Department 部局	Dept. of Civil and Environmental Engineering 工学部　社会建設工学科
Date 期日	2011.09.12– 09.16
University or Institution Abroad 相手大学・施設	School of Civil and Hydraulic Engineering, Ningxia University
YU Participants 山大側参加者	Graduate Scholl of Science and Engineering: Isamu Yoshitake (Associate Prof.) 理工学研究科 吉武　勇（准教授）
Counterparts 相手国側参加者	Associate Prof.Mingjie Mao（毛　明傑） Associate Prof.Qiuning Yang（楊　秋寧）
Travel Cost 旅費	Research project money 研究費
Current Results 当面の成果	1. Information of use of fly-ash in China 2. Presentation of fly-ash concrete project in Yamaguchi Univ. 1. 中国における石炭灰の利用調査 2. 山口大学のフライアッシュコンクリート研究の紹介
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Joint research of fly-ash concrete 2. Visiting student from Ningxia University 1. フライアッシュコンクリートの共同研究 2. 寧夏大学からの研究生の受入（2012.09～）
Contents 内容	Ningxia University is equipped with new testing machines for concrete, but these are almost fundamental apparatus. A part of fly ash from coal-burning power plants has been used in concrete as well as Japan. However, the most of the ash are stockpiled in a huge ground.　Chinese researchers and engineers are looking for an effective use of the fly ash in concrete. 寧夏大学では，新しいコンクリートの試験装置が整備されていたが，そのほとんどは基本的な試験装置ばかりであった． 日本同様に，石炭火力発電所から排出される一部の石炭灰は，コンクリートに有効利用されていた．しかし，その多くは埋立処分されていた．中国の研究者・技術者は，この石炭灰の有効活用法を模索していた．

	Main building of Ningxia University 寧夏大学　本部ビル
	Universal testing machine 載荷試験機
	Presentation of a research project for researchers and students in Ningxia University 寧夏大学教員・学生に対する山口大学紹介および研究発表
	Visiting a stockpiled site of fly ash. 石炭灰の埋立状況の視察
	Technical tour of a museum of coal burning power plant 石炭火力発電所の技術資料館の見学

Inquiries 問合せ先	Isamu Yoshitake, Dept. of Civil and Environmental Engineering, Graduate Scholl of Science and Engineering, 理工学研究科 社会建設工学専攻　吉武　勇（准教授） TEL: 0836-85-9306　E-mail: yositake@yamaguchi-u.ac.jp

24.大学院理工学研究科（工学）　田中　佐　教授（特命）　他
「『国際バイオ科学・工学シンポジウム』の開催」【インドネシア】

Project Title プロジェクト名	「国際バイオ科学・工学シンポジウム」の開催
YU Department 部局	大学院理工学研究科（工学）
Date 期日	平成２３年９月２１日～平成２３年９月２２日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	ウダヤナ大学（インドネシア）
YU Participants 山大側参加者	丸本卓哉学長，堀憲次工学部長，田中佐教授（特命），三浦房紀教授
Counterparts 相手国側参加者	インドネシア森林省林業研究所 ハノイ農業大学 メラビーインドネシア国立公園
Travel Cost 旅費	学長裁量経費，工学部プロジェクト経費
Current Results 当面の成果	・山口大学丸本学長の基調講演 ・両国間の植生回復における共同研究の推進
Possibility of Future Development 今後の発展性	両大学間における研究プロジェクトとして，菌根菌技術に植生回復の可能性を検討することになった。
Contents 内容	平成２３年９月２１日から２２日で「国際バイオ科学・工学シンポジウム」が開催され，山口大学丸本学長の基調講演，インドネシア森林省林業研究所，ハノイ農業大学，メラピーインドネシア国立公園，日本側から林業試験所，JICA プロジェクト等から本テーマについて発表があった。
	シンポジウム会場にて
	集合写真
Inquiries 問合せ先	山口大学大学院理工学研究科　教授(特命)　田中　佐 TEL: 0836-85-9128　E-mail: tttanaka@yamaguchi-u.ac.jp

25.大学院理工学研究科（工学）　田中　佐　教授（特命）
「ウダヤナ大学への学生留学」【インドネシア】

Project Title プロジェクト名	ウダヤナ大学への学生留学
YU Department 部局	大学院理工学研究科（工学）
Date 期日	平成２３年９月２７日～平成２３年１１月２２日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	ウダヤナ大学（インドネシア）
YU Participants 山大側参加者	理工学研究科学生（今岡諒太，金澤達哉，高宮誠之）
Counterparts 相手国側参加者	ウダヤナ大学
Travel Cost 旅費	山口大学工学部創立５０周年記念事業助成金
Current Results 当面の成果	・ウダヤナ大学リモートセンシング海洋科学センターにおいて，GOSAT から得られたデータ利用 ・ウダヤナ大学大学院生との交流 ・インドネシアの他大学へのゲストレクチャー
Possibility of Future Development 今後の発展性	・両国のリモートセンシングに関する研究の促進 ・英語によるコミュニケーションスキルを持った専門人材の育成
Contents 内容	本学大学院理工学研究科の学生３名が，Udayana 大学に２ヶ月間滞在し，研究及びウダヤナ大学の学生と交流を行った。 また，インドネシアの他大学において英語のパワーポイント資料によるプレゼンテーションを行う等，異文化交流を通じて国際感覚を養った。
Inquiries 問合せ先	山口大学大学院理工学研究科　教授(特命)　田中　佐 TEL: 0836-85-9128　E-mail: tttanaka@yamaguchi-u.ac.jp

26.大学院理工学研究科（工学）　田中　佐　教授（特命）　他
「衛生リモートセンシングによる環境・防災研究合同セミナー」【インドネシア】

Project Title プロジェクト名	衛星リモートセンシングによる環境・防災研究合同セミナー
YU Department 部局	大学院理工学研究科（工学）
Date 期日	平成２３年１１月１３日～平成２３年１１月２２日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	ウダヤナ大学（インドネシア）
YU Participants 山大側参加者	田中佐教授（特命），三浦房紀教授，関根雅彦教授，小河原加久治教授，山口大学学生６名
Counterparts 相手国側参加者	MadeSudianaMahendra 教授，大澤高浩准教授，ウダヤナ大学学生８名
Travel Cost 旅費	日本学生支援機構
Current Results 当面の成果	平成23年9月入学のウダヤナ大学院生と担当教員を山口大学へ招請して講義、実習等を本学学生と共に行うことにより両大学の交流をいっそう深め、今後の人材育成をより推進していくためのセミナーを開催した。
Possibility of Future Development 今後の発展性	JAXA での衛星リモートセンシング実物見学、衛星地球観測プログラムの紹介、JAXA 研究者との討論により自己の研究課題に対する見方の深化が得られたものと思われる。そうした研究の視点の広がり・深化が修士論文に反映されることを期待するものである。
Contents 内容	セミナーは 11 月 14 日の開講式に始まり、山口大学宇部キャンパスにおいて，学内施設を見学した。その後，11月18日までの間，共通講義として、「陸域・水域・植生保全特論」（マヘンドラ教授）と「空間情報学特論」（関根教授），学生の研究発表を行った。 学外見学として，11月15 日に中国電力株式会社新小野田発電所、11月20日には，筑波宇宙センターを見学した。

	開講式
	株式会社中国電力新小野田発電所見学

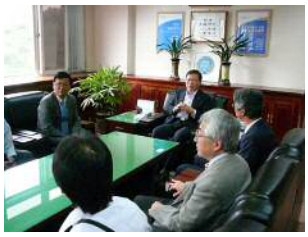
	講義風景
	筑波宇宙センター見学
	歓送会
Inquiries 問合せ先	山口大学大学院理工学研究科　教授(特命)　田中　佐 TEL: 0836-85-9128　E-mail: tttanaka@yamaguchi-u.ac.jp

27.大学院理工学研究科（工学）　関根　雅彦　教授　他
「東ティモール大学工学部能力向上プロジェクト」【東ティモール】

Project Title プロジェクト名	東ティモール大学工学部能力向上プロジェクト Project for Capacity Development of Faculty of Engineering, Science and Technology in National University Timor-Lorosa'e
YU Department 部局	山口大学（窓口：学長戦略部　国際・社会連携課／ 指導担当：工学部社会建設工学科）
Date 期日	2011 年 2 月～2014 年 1 月
University or Institution Abroad 相手大学・施設	東ティモール大学工学部（東ティモール） National University Timor-Lorosa'e (Timor-Lorosa'e)
YU Participants 山大側参加者	社会建設工学科教員（既に支援実績のある教員（50 音順）：朝位孝二、進士正人、鈴木素之、関根雅彦、高海克彦、松尾栄治（元）、宮本文穂、山本浩一）
Counterparts 相手国側参加者	東ティモール大学工学部土木工学科教員（既に交流実績のある教員：Alfredo P., Benjamin H. M., Hugo da C. X., Justino da C.S., Leandro M. B., Lourenco S., Marcelo M., Sergio M. F.）
Travel Cost 旅費	JICA 負担
Current Results 当面の成果	2010 年度、鈴木、関根、松尾を相手大学に派遣 2011 年度、Lourenco, Leandro が本学で短期研修。朝位、進士鈴木、関根、高海を相手大学に派遣
Possibility of Future Development 今後の発展性	既に相手大学から本学への入学者が出ている。来年度 Hugo も受験予定。また相手国の状況把握の中から新しい研究課題も発生している。
Contents 内容	The Ministry of Education aims to train competent engineers who can respond the labor market needs through establishment of Polytechnics, and also expect the Faculty of Engineering, Science and Technology, UNTL to be a center of excellence in engineering education. Yamaguchi university works for this purpose in Civil engineering field. 東ティモールの教育省では、東ティモール大学の工学部教育を改革することで、労働市場のニーズに対応することを望んでいる。山口大学は土木工学分野においてこれを支援する。

	本学での研修講義
	日本の土木事業の見学
	相手大学での研修講義
	相手国での実習
Inquiries 問合せ先	Masahiko SEKINE, Civil and Environmental engineering 大学院理工学研究科（工学）社会建設工学科 関根　雅彦（教授） 内線 9311　E-mail: ms@yamaguchi-u.ac.jp

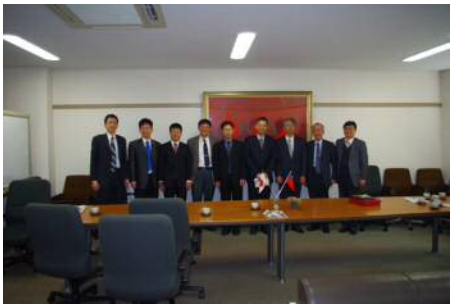
28.工学部　堀　憲次　学部長　他
「群山大学校との国際交流」【韓国】

Project Title プロジェクト名	群山大学校との国際交流
YU Department 部局	工学部
Date 期日	2011.08.24-2011-0826
University or Institution Abroad 相手大学・施設	群山大学校（韓国）
YU Participants 山大側参加者	堀憲次工学部長、森田昌行教授、江　鐘偉教授、兵動正幸教授、喜多英敏教授、中村秀明教授、岡本昌幸助教、鶴永　剛企画･広報･国際係長
Counterparts 相手国側参加者	Prof.Jang-Ho Lee、Prof.Suk-Soon Kim、Prof.Kang-Ju Kim、Prof.Seong　Ryong Lee、Prof.In-Ho Na
Travel Cost 旅費	学部経費
Current Results 当面の成果	セミナーを開催し研究成果等の発表を行い、学術交流を深めた
Possibility of Future Development 今後の発展性	教員だけでなく事務職員を含めた学部単位での学術交流
Contents 内容	両国の教員によるセミナーが開催され、各教員による研究発表が行われ、活発な情報交換が行われた。また、群山大学校総長を表敬訪問し、今後も引き続き交流を深めていくこととした。今後は、教員だけでなく事務職員を含めた交流を進めていく。
	Chae,Jeong,Ryong 群山大学校総長を表敬訪問
	群山大学校事務局
	群山大学校工科大学にてセミナーを開催
Inquiries 問合せ先	工学部企画･広報･国際係　鶴永　剛 TEL: 0836-85-9003　E-mail: en282@yamaguchi-u.ac.jp

29.工学部　堀　憲次　学部長　他
「忠北大学校との国際交流」【韓国】

Project Title プロジェクト名	忠北大学校（韓国）との国際交流
YU Department 部局	工学部
Date 期日	2011.08.26-2011-0827
University or Institution Abroad 相手大学・施設	忠北大学校（韓国）・工科大学
YU Participants 山大側参加者	堀憲次工学部長、森田昌行教授、江　鐘偉教授、鶴永　剛企画･広報･国際係長
Counterparts 相手国側参加者	Prof. Seoun-Ron Ha：工科大学教授・学長（学部長） Prof. Gun-Eik Jang：工科大学教授・次期工科大学長 Prof. Doo-Hyun Kim：工科大学教授・副学長（副学部長） Prof. Soo-Gil Park：工科大学教授 Mr. Kab-Soo Woo：工科大学（工学部）事務長
Travel Cost 旅費	学部経費
Current Results 当面の成果	セミナーを開催し研究成果等の発表を行い、学術交流を深めた
Possibility of Future Development 今後の発展性	交流活動での実質化（複数学科での研究活動の紹介。合同セミナー実施、大学院生の短期派遣、事務系職員交流）や大学間交流への拡大（学長、副学長レベルでの訪問等）
Contents 内容	交流協定書や附属書の確認、忠北大学校工科大学の概要および山口大学工学部の概要説明、これまでの交流内容の確認、今後の交流計画について意見交換が行われた
	Prof. Seoun-Ron Ha：工科大学学長（学部長）、Prof. Gun-Eik Jang：工科大学次期工科大学長を表敬訪問
	Seung-Taik Kim 総長（学長）を表敬訪問
Inquiries 問合せ先	工学部企画･広報･国際係　鶴永　剛 TEL: 0836-85-9003　E-mail: en282@yamaguchi-u.ac.jp

30.工学部　堀　憲次　学部長　他
「成功大学との国際交流」【台湾】

Project Title プロジェクト名	成功大学（台湾）との国際交流
YU Department 部局	工学部
Date 期日	2011.11.17
University or Institution Abroad 相手大学・施設	成功大学（台湾）・材料科学科
YU Participants 山大側参加者	堀憲次工学部長、宮本文穂国際交流支援室長、兵動正幸教授、江　鐘偉教授、赤田倫治教授、藤森宏高准教授
Counterparts 相手国側参加者	・Prof. Jiunn-Der Liao, chairman and professor, Engineered materials for biomedical applications ・Prof. In-Gann Chen, distinguished professor, High temperature superconducting materials, optoelectronics and ano-materials ・Prof. Xiao-Ding Qi, associate professor, MRI ・Prof. Kuo-Chang Lu, assistant professor, Nanomaterials and Electronic Thin Film ・Prof. Shih-kang Lin, assistant professor, Materials Thermodynamics ・Miss Camilla Lai, secretary ・LEE-FEI HUANG
Travel Cost 旅費	成功大学
Current Results 当面の成果	今後の交流の可能性を見出すことができた。
Possibility of Future Development 今後の発展性	特にダブルディグリープログラム等を通じた、学生交流が発展していく可能性がある。
Contents 内容	山口大学、工学部の紹介が行われた。また、各大学での単位の取得方法、英語での授業の進め方等についての説明が行われた。 また他大学と締結しているダブルディグリープログラムについて、説明が行われた。
	成功大学 Prof. Jiunn-Der Liao 外 訪問団と。
Inquiries 問合せ先	工学部企画･広報･国際係　鶴永　剛 TEL: 0836-85-9003　E-mail: en282@yamaguchi-u.ac.jp

31.大学院東アジア研究科　福田　隆眞　教授
「亜州美術教育研究会の開催」【韓国】

Project Title プロジェクト名	亜州美術教育研究会の開催
YU Department 部局	大学院東アジア研究科
Date 期日	2011 年 8 月
University or Institution Abroad 相手大学・施設	韓国淑明女子大学
YU Participants 山大側参加者	福田隆眞
Counterparts 相手国側参加者	金　香美准教授　ほか
Travel Cost 旅費	山口大学が支給
Current Results 当面の成果	
Possibility of Future Development 今後の発展性	
Contents 内容	亜州美術教育研究会を開催し，美術教育研究に関する情報交換を行った。
Inquiries 問合せ先	福田　隆眞　東アジア研究科長 内線 5515/5370　E-mail: t-fukuda@yamaguchi-u.ac.jp

32.大学院東アジア研究科　福田　隆眞　教授

「マレーシア、シンガポールにおける美術教員研修及び調査」【マレーシア・シンガポール】

Project Title プロジェクト名	マレーシア、シンガポールにおける美術教員研修及び調査
YU Department 部局	大学院東アジア研究科
Date 期日	2011 年 10 月
University or Institution Abroad 相手大学・施設	マレーシア（ベナン，クアラルンプール），シンガポール
YU Participants 山大側参加者	福田隆眞
Counterparts 相手国側参加者	
Travel Cost 旅費	科学研究費補助金
Current Results 当面の成果	
Possibility of Future Development 今後の発展性	
Contents 内容	ベナン美術教師連盟の会長にインタビューを，マレーシア教育省にて，美術教育カリキュラム調査を，シンガポール教育省にて美術教員研修及び調査を行った。
Inquiries 問合せ先	福田　隆眞　東アジア研究科長 内線 5515/5370　E-mail: t-fukuda@yamaguchi-u.ac.jp

33.大学院東アジア研究科　福田　隆眞　教授
「台湾における美術教育の調査」【台湾】

Project Title プロジェクト名	台湾における美術教育の調査
YU Department 部局	大学院東アジア研究科
Date 期日	2012 年 1 月
University or Institution Abroad 相手大学・施設	台湾（台北，高雄） 台北教育大学、高雄市美術館
YU Participants 山大側参加者	福田隆眞
Counterparts 相手国側参加者	
Travel Cost 旅費	山口大学が支給
Current Results 当面の成果	
Possibility of Future Development 今後の発展性	
Contents 内容	台北教育大学にて美術教育の調査，また高雄市美術館にて，美術館教育の調査を行った。
Inquiries 問合せ先	福田　隆眞　東アジア研究科長 内線 5515/5370　E-mail: t-fukuda@yamaguchi-u.ac.jp

34.大学院東アジア研究科　福田　隆眞　教授　他
「韓国外国語大学校との学術交流に関する協議」【韓国】

Project Title プロジェクト名	韓国外国語大学校との学術交流に関する協議
YU Department 部局	大学院東アジア研究科
Date 期日	2012 年 3 月
University or Institution Abroad 相手大学・施設	韓国外国語大学校
YU Participants 山大側参加者	福田隆眞，葛崎偉，横田伸子
Counterparts 相手国側参加者	
Travel Cost 旅費	山口大学が支給
Current Results 当面の成果	
Possibility of Future Development 今後の発展性	
Contents 内容	教育及び研究者交流に関する今後の交流の可能性を確認した。
Inquiries 問合せ先	福田　隆眞　東アジア研究科長 内線 5515/5370　E-mail: t-fukuda@yamaguchi-u.ac.jp

35.大学院連合獣医学研究科　度会　雅久　教授
「中興大学及びソウル大学との研究教育連携」【台湾・韓国】

Project Title プロジェクト名	PROGRAM FOR “COOPERATIIVE RESEARCH AND EDUCATION AMONG UVY, NCHU AND SNU” 中興大学及びソウル大学との研究教育連携
YU Department 部局	The United Graduate School of Veterinary Science 大学院連合獣医学研究科
Date 期日	平成 24 年 3 月 3 日～3 月 7 日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	National Chung Hsing University 台湾国立中興大学
YU Participants 山大側参加者	Yasuo Kiso, Masahisa Watarai, Hong-Kean Ooi, Koichi Sato, Ken Maeda, Kenji Tani, Yoshiaki Yamano, Yasuyuki Endo 木曾康郎、度会雅久、黄鴻堅、佐藤晃一、前田健、谷健二、山野好章、遠藤泰之
Counterparts 相手国側参加者	Chia-Hung Mao, Wei-Ming Lee, Kwong-Chung Tung, Min-Liang Wong, Chi-Chung Chou, Wei-Li Hsu, Ya-Chen Li（以上中興大学） Hang Lee, Inhyung Lee（以上ソウル大学）
Travel Cost 旅費	連合獣医学研究科長裁量経費
Current Results 当面の成果	Investigation of cooperative research and education program in three universities (UVY, NCHU, SNU) 山口大学、中興大学、ソウル大学の３つの大学間における獣医学研究および教育の連携・協力体制に関する検討。
Possibility of Future Development 今後の発展性	International cooperation for veterinary education We confirmed that platform (three universities located in Asian Area including Yamaguchi university) maintains to cooperate veterinary education. 獣医学教育の国際連携 ３大学における獣医学研究および教育に関して連携することを試みることによって、人材交流がさらに発展すると考えられる。
Contents 内容	1) Discussion on cooperative program We try to set up a cooperative research and education program with the general target to improve the sharing of veterinary information and education resources among Japan, Korea and Taiwan through collaboration among UVY, SNU and NCHU. 2) Symposium on "Recent Advances in Veterinary Research and Education" We introduced each university to participants and had mutual exchange to enter our university. １）教育研究の連携について 山口大学、中興大学、ソウル大学が連携して獣医学研究および教育が推進できるかどうか検討を行った。今後、遠隔講義システムなど

	を用いて、会議の開催を試みることとなった。 ２）シンポジウム開催と学生・教員との交流 会議参加者による各大学の紹介および臨床、基礎、応用といった幅広い範囲の獣医学に関する研究について最新の知見が紹介された。 学生および教員との交流会を開催した（参加人数約 50 名）。
Inquiries 問合せ先	Masahisa Watarai, The United Graduate School of Veterinary Science 連合獣医学研究科（教授）　度会雅久 TEL: 083-933-5831　E-mail: watarai@yamaguchi-u.ac.jp

36.大学教育機構アドミッションセンター　大澤　公一　講師

「**Visiting to Cambridge Assessment, University of Cambridge Local Examinations Syndicate (UCLES)**」【イギリス】

Project Title プロジェクト名	Visiting to Cambridge Assessment, University of Cambridge Local Examinations Syndicate (UCLES)
YU Department 部局	Admission Research Centre
Date 期日	5th-6th October, 2011.
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Cambridge Assessment, University of Cambridge Local Examinations Syndicate (UCLES), Cambridge, United Kingdom.
YU Participants 山大側参加者	Koichi OSAWA (Lecturer), Admission Research Centre
Counterparts 相手国側参加者	Dr Neil Jones, Dr Lynda Taylor, Mr. Simon Beeston, Mr. Mark Shannon & Mr. Tom Bramley
Travel Cost 旅費	Grant-in-Aid for Young Scientists B, JSPS, Japan.
Current Results 当面の成果	1. Attendance to the seminar "Challenges to admissions testing". 2. Learning practical assessment issues in Cambridge Assessment. 3. Learning "Asset Languages (Language Ladder)" and CEFR. 4. Meeting on future collaborative study on educational assessments.
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Collaborative study on university admissions testing. 2. Collaborative study on language testing. 3. Exchange researchers between the institutions.
Contents 内容	Established in 1858, Cambridge Assessment is the University's international exams group, comprising three exam boards (CIE, ESOL, OCR) as well as the largest educational research capability of its kind. The seminar focused on academic writing tests for university admissions and discussed were several aspects and "parameters" of testing issues both on psychological constructs, theoretical and practical problems. To develop Japanese university admissions test based on academic aptitudes required for higher education, more study should be needed as to Thinking Skills Assessment (TSA) provided by Cambridge Assessment, especially focusing on the assessment of academic writing proficiency.
Inquiries 問合せ先	Koichi OSAWA (Lecturer), Admissions Research Centre, TEL: 083-933-5088　E-mail: osawa@yamaguchi-u.ac.jp

37.大学教育機構大学教育センター　何　暁毅　教授
「中国山東大学高等教育研究センターにおける講義提供及び交流推進」【中国】

Project Title プロジェクト名	中国山東大学高等教育研究センターにおける講義提供及び交流推進
YU Department 部局	大学教育機構　大学教育センター
Date 期日	平成２３年９月１１日（日）～１７日（土）
University or Institution Abroad 相手大学・施設	山東大学高等教育研究センター（中国）
YU Participants 山大側参加者	何 暁毅
Counterparts 相手国側参加者	山東大学高等教育研究センター教員６人、院生１１人
Travel Cost 旅費	山口大学国際連携・国際プラットフォーム（一部）
Current Results 当面の成果	・本学の紹介 ・研究者との交流 ・講義提供
Possibility of Future Development 今後の発展性	山口大学の参加者は山東大学高等教育研究センターの客員教授であるので、これからも積極的に交流を推進したい。
Contents 内容	９月１２日から１６日まで山東大学高等教育研究センターにおいて、「日本の教育と日本社会」をメインテーマに、日本の高等教育について、「学問の自由と学生の自主自立」、初等教育について「近代日本教育の概要及びその成果」などについて、講義した。

講義の様子

最後に記念写真

高等教育研究センター教員たちと一緒に

Inquiries 問合せ先	大学教育機構大学教育センター　何暁毅（教授） 内線：5065　E-mail: hexiaoyi@yamaguchi-u.ac.jp

38.大学教育機構大学教育センター　何　暁毅　教授
「語学関係 FD 講演会」【中国】

Project Title プロジェクト名	語学関係 FD 講演会
YU Department 部局	大学教育機構（大学教育センター）
Date 期日	2011 年 11 月 2 日（水）　14:30~17:00
University or Institution Abroad 相手大学・施設	郝桂秀（かく　けいしゅう） （快捷漢語国際文化伝播有限公司総経理クイックチャイニーズ教育法開発者）
YU Participants 山大側参加者	語学関係教育職員、非常勤講師及び関心のある教員・学生等 実際の参加者：専任教員 10 人、非常勤講師 5 人、他大学他 3 人、学生 53 人
Counterparts 相手国側参加者	郝桂秀（かく　けいしゅう）
Travel Cost 旅費	共通教育 FD 経費
Current Results 当面の成果	講師の開発した初心者に対する効果的な語学教育法を講演し、参加者が刺激を受けた。
Possibility of Future Development 今後の発展性	教材の共同開発などを期待した。
Contents 内容	本 FD 講演会は独自の教育法とユニックな教材を開発した講師を招き、その教育法の紹介及び教材の実演を通じて、本学の教員、特に初修外国語関係の教員に初心者教育の新たな可能性を提供した。
	講演会第一部：語学教育実演
	講演会第二部：教員との交流
Inquiries 問合せ先	大学教育機構大学教育センター　何暁毅（教授） 内線：5065　E-mail: hexiaoyi@yamaguchi-u.ac.jp

39.大学教育機構大学教育センター　何　暁毅　教授
「『日本江戸時代の易学について』の共同研究」【中国】

Project Title プロジェクト名	「日本江戸時代の易学について」の共同研究
YU Department 部局	大学教育機構（大学教育センター）
Date 期日	平成２４年１月２５日（水）～平成２４年２月５日（日）
University or Institution Abroad 相手大学・施設	山東大学高等教育研究センター（中国）
YU Participants 山大側参加者	大学教育機構　何暁毅
Counterparts 相手国側参加者	井　海明　教授
Travel Cost 旅費	山口大学日中学術交流基金
Current Results 当面の成果	・図書館及び東亜経済資料室に所蔵する古い文献等を調べ ・人文などの中国哲学関係の研究者と交流した。 ・萩などの見学を通じて、明治維新などについて理解を新たにした。
Possibility of Future Development 今後の発展性	多くの資料実物との対面及び研究者との交流を通じて、引き続き研究協力する、交流するの可能性を実感した。
Contents 内容	国古典の『易経』は古く日本に伝来し、正倉院にも納められている。いまや占いから風水、そして哲学、数学まで日本社会の隅々までに影響及ぼしている。しかし鎖国の江戸時代における『易経』（易学）の流布及び社会影響等について中国ではあまり知られていない。今回の来日により、図書館及び東亜経済資料室に所蔵する古い文献等を調べ、中国で知られざる江戸時代における「易学」の受容及び影響について多くの資料を集められた。また、哲学関係の他の研究者とも意見を交換し、交流を深めた。今後の研究交流の可能性を探ることができた。

県庁などを見学、議会民衆主義について意見交換

	人文学部の高木先生と交流、意見交換
	国際担当副学長松田先生と歓談
	萩明治維新遺跡、松陰神社を見学。
Inquiries 問合せ先	大学教育機構大学教育センター　何暁毅（教授） 内線：5065　E-mail: hexiaoyi@yamaguchi-u.ac.jp

40.時間学研究所　藤澤　健太　教授
「国際シンポジウム『東アジアの最先端天文学』」【中国・韓国・台湾】

Project Title プロジェクト名	International Symposium “Advance Astronomy in East Asia” 国際シンポジウム「東アジアの最先端天文学」
YU Department 部局	The Research Institute for Time Studies 時間学研究所
Date 期日	2011-12-08
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Shanghai Astronomical Observatory (China) Korea Astronomy and Space Science Institute (Korea) Institute of Astronomy and Astrophysics Academia Sinica (Taiwan)
YU Participants 山大側参加者	時間学研究所教授　藤澤健太（FUJISAWA Kenta）
Counterparts 相手国側参加者	Prof. Shen Zhiqiang (China), Prof. Cho Sehyung (Korea), Prof. Inoue Makoto (Taiwan)
Travel Cost 旅費	Yamaguchi University 山口大学
Current Results 当面の成果	1. Information of the current status of the research was obtained. 2. Mutual communication and project of joint research were initiated. １．各国の研究の現状に関する情報を入手した ２．情報交換・共同研究の打ち合わせ（学術講演を含む）を行った
Possibility of Future Development 今後の発展性	1. Sending graduate students and staff for short term to research. 2. Co-observation and joint research １．大学院生や教員の短長期の滞在研究 ２．共同観測と共同研究の実施
Contents 内容	The researcher of three nations in East Asia was invited to Yamaguchi University, and an international symposium was held. The aims of this symposium were to understand the current status of the research in astronomy of each country, and to discuss the way to make collaboration on co-observation in VLBI astronomy. 山口大学へ東アジア３カ国の研究者を招聘して国際シンポジウムを開催した。現在我々は山口大学で行っている VLBI の研究を東アジア地域に広め、共同で研究を行うことを目指している。このシンポジウムによって各国の研究の現状を知り、また共同観測の実施方法について議論を行った。

Signboard of the symposium
シンポジウムの看板

	A photo of the symposium シンポジウムの様子
	Banquet. From left: A.Prof. Aoyama, Prof. Akashi, Prof. Fujisawa, Prof. Tsuji, Prof Cho (Korea), Prof. Shen (China), students 懇親会の様子
Inquiries 問合せ先	Kenta Fujisawa (prof.), The Institute for Time Studies, 時間学研究所（教授）　藤澤健太 TEL: 083-933-5973　　E-mail: kenta@yamaguchi-u.ac.jp